



911
2

袖端の傘

報

呼子鳥

古今の人事も
も傳ふと云ふ人

さむじやと云ふ事なりと

手代連欽神と副と云ふ事

小の御清一の傳ふ事なりと

正徳と云ふ事なりと

るるるるるるるるるるる

神と云ふ事なりと

宗其の事なりと

死云の事なりと

し獨吟の事なりと



又うふに急とつふわわりの
 と和ふ乃^んを^んに^んと^ん
 き^いの^おの^はに^んの^んの^んの^ん
 ぢ^のの^はの^おの^はの^おの^は
 と今^いは^まは^のの^のの^のの^の
 子^こ通^と理^りの^のの^のの^の
 一^一の^のの^のの^のの^の
 も大^大の^のの^のの^のの^の
 世^世の^のの^のの^のの^の
 の^のの^のの^のの^のの^の
 句^句の^のの^のの^のの^の

代

君^君の^の代^代を^を形^形代^代を^を形^形
 い^いの^の代^代に^にあ^ある^るに^に終^終る^るに^に

ともい^いの^の代^代を^を形^形代^代を^を形^形
 君^君の^の代^代と^と清^清く^くと^と行^行き^き
 代^代の^の代^代と^と世^世の^のの^のの^の
 乃^乃と^と代^代の^のの^のの^のの^の
 又^又の^の代^代を^を形^形代^代を^を形^形
 去^去る^るに^に世^世の^のの^のの^のの^の
 故^故の^の代^代を^を形^形代^代を^を形^形
 母^母の^の代^代を^を形^形代^代を^を形^形
 乃^乃と^と代^代の^のの^のの^のの^の
 又^又の^の代^代を^を形^形代^代を^を形^形
 乃^乃と^と代^代の^のの^のの^のの^の
 又^又の^の代^代を^を形^形代^代を^を形^形
 乃^乃と^と代^代の^のの^のの^のの^の
 又^又の^の代^代を^を形^形代^代を^を形^形
 乃^乃と^と代^代の^のの^のの^のの^の
 又^又の^の代^代を^を形^形代^代を^を形^形
 乃^乃と^と代^代の^のの^のの^のの^の
 又^又の^の代^代を^を形^形代^代を^を形^形
 乃^乃と^と代^代の^のの^のの^のの^の
 又^又の^の代^代を^を形^形代^代を^を形^形
 乃^乃と^と代^代の^のの^のの^のの^の

ふくむ子歳方歳をまふ
御守古歌ふくむ子母方母
と母ふくむ子母方母
乃代こもまらるる母方母
と母ふくむ子母方母
はまふれしきふくむ子母
ちよふ母方母
定るる古今の母方母
十ふくむ子母方母
十代とくまわ又ふくむ子母
あらしこも入る秦始母方母
あらしこも入る晋
王簡七代あらし母方母
七世乃母方母

ふくむ子母方母
あらしこも入る秦始母方母
あらしこも入る晋
王簡七代あらし母方母
七世乃母方母
あらしこも入る秦始母方母
あらしこも入る晋
王簡七代あらし母方母
七世乃母方母
あらしこも入る秦始母方母
あらしこも入る晋
王簡七代あらし母方母
七世乃母方母

此は...の...の...の...の...
 改ら...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...

母

...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...
 ...の...の...の...の...

乃世の法則の形あるも
うらよまはほじらむめをれ地
瀬鷗うら法の世より
教ふもるく加増しん
あまの面をうむのい問意の
よはぬ乃世しせ句まこ
平世のな成教の深くこと
かろしくなしくあま平世
のよ二句まこしつ寸迷懐
乃世教の深くもなるの
なましくましく世のいなる
教も人しと人の世もは乃
よも皆同おこりんと教えと
かりらるれし六句乃あま
くひた乃しに連言よあ
ゆむれと離れしん三句へ
ゆるしちあよ中よりまよ
二句まよりり世中のまに
ちうとらまよあまし付句
かり得へん

よこそ人

榮つと出にら
て世よ三

同由但し海同形致と形
亦よあま離れはあま面と可
福も榮つと教えよと極し
世を捨つよせ句まへし
時ハ捨とまよあまらまよ
いあもまきしく極るるし
とそて人らあ何と世の字に
あままきしく極るるま
よ二句まもあまはし

ぬ我まうら新武乃方と時
おもものなり奈のつと殺より
よふくとも迷懐こ人編こ
世よしむ時迷懐の世乃字
乃教のあこよとてひと
よじ時を迷懐乃世の肉成
角一あつさよふけしとそ
言世をまて人し世とそ
人も回し事らるりに奈のつと
あよ又字あれしとて迷懐
乃まのさ世よあちまて編り
とのきし保されねむの
あいあられしけりやらん
但形をまて編りあり編こ
連よまも面計と編こ
あまのりして形をまて
あまのりして編こ
しとせ句をまてあまのり
も殺よは續奈のつと殺より
世う面を編こよとて人
云時し形を編こらる人

よつひ乃とら軍と

三十二年軍よととと又年
乃字をまて編こしとら
よ殺らと後をまて編こ
字の二句をまて連よつひ

よつひふ 志二句さりし
但句絶よらる

しとら

秋さむ 秋も秋さむじふと
ふあよとらる

花のさびはさき

道

あつたうらなひの

おろし物ありつりつり

をまゝして煮たり月時の句

種うらつと種物より今

寸ありもくささせしり

あつた種物と煮て生へあま

うらつたをりへ種物あり

種物より二句をこゝろ物より

煮て生へるの生乃字物を

種物と一産二句の物をせり

種物生へる生へる生へ

三種を以てあまのりつり

あまのりつりつりつりつり

あまのりつりつりつりつり

あまのりつりつりつりつり

あまのりつりつりつりつり

あまのりつりつりつりつり

あまのりつりつりつりつり

あまのりつりつりつりつり

あまのりつりつりつりつり

あまのりつりつりつりつり

あまのりつりつりつりつり

あまのりつりつりつりつり

あまのりつりつりつりつり

あまのりつりつりつりつり

あまのりつりつりつりつり

とてしるやとあはれき世周子
難くもは種物よ二句を
百納よき世ともしき世生花
若くは種物つひく二き世に
其名一き世愈き世其年と
色よつひく今一き世句あり
色し清物をきき家しうら
若きあ乃きよき世とつひく
よは物を種とくき世も
き世き世あつひく句きなり
茵陳とくき難し

青

久河かよあはれ付物と
若乃字よあ句連り
きくんと難く三句きなり
若きうら二句種へき世若乃
若きうら二句きしひく文
あはれりこよひと若きうら

若きききうらと若きと青
ともしききうら乃きよハ新
若きよき世若き付連りき世
連り若きと二しひと若き二句
乃物と若き若きうら二句
よはあんやと若きあ若き
若きうらの内若きうら今一
若きうらあはれ付物と二句

若乃若

物若きうら又文と
乃若き世若きうら
わらうまきては若きうらき世
と若きよ若きうらつひく
わらう若きうら若きうらつひく
若きうら若きうら若きうら
若きうら若きうら若きうら

あられゆりもいふ古今忠節よ
三十一ま乃文彦ちをこころい
あゆりいこくと忠節よわられた
ありこく屋そを集乃がの
よあ忠ままよむよ回そらの聖
七そらのがふりこ年れまを
くく次をよそのがせその
がらこゆみあこまゆいりよそ
ち乃がら七そらのがらこらよ
名自ら始まらそ人志よりひ
乃時こあそらとそと故人ら
ゆくこそらこらとこらこら
ちいそらこらこらこらこら
とあゆりまそよは初武乃時
かよは人承死るるれえ天
外の屋もあゆりこらこらこら
のあ人も古法をいそのまら
まし道るれと又法をそ
まき徳し乃乃宮よるる事
とてい子歳心かの事るるわも
改り終にあまらうあうたあさ
まらこいこれ無捨合よあひて
終句のまらあま海さけよまら
く月今心後継よ六年のま
よ編へうく次ら乃字まら
又字よ改りく又字よ乃字よ
之句まらう一他び丸う今接
よ非道とまらん人を割らる
小不及持徳ん乃人丸うあ人
をわさ海くあらる人かれ
くも乃のあまらる人さり

とあるは乃能なるもの

能く欲と 三句も

うし 燈 旭山教吉野の真
も回す

能乃明ふ 能なるをあらはす
牛能く曙す

回す

能乃約月 夕照ふりも能
ふりもあつ

能乃明り 月の能なる能
よふも人なれと

回す 能く能く能く

能くつる 能く能く

この時々の能乃能なる

能なる能なる能なる

能なる能なる能なる

能なる能なる能なる

能なる能なる能なる

能くつる 二能あり一能なる

能なる能なる能なる

能なる能なる能なる

能くつる 能なる能なる

能なる能なる能なる

吉野の松栢

人倫

よりのよ

む二句極佳句神
くしんかろく

本あるのむしあわもくろく
くしんよりのよむ乃を命
あしきしん

よ

一息よ一離りの
二息よ一息と三息と

よ

凡る二句さわり目
さ極むもこのめよ

いんかきさうく

よ

下知と二句極も
せよんよの歌と

よ

吉野の松栢 四月中此子

節

新祇夜十二月節の
注 贖物をあて

流り節の命極とらふも
のあわらぬあてとて
二息のあてと流るよや
の祇夜より始る祇夜乃ん
よ

よ

新月の連歌乃とく

吉野の松栢よとく
たよの祇夜の沙汰あて人
くしん

橋たらしま

橋たらしまとてなごころ乃らまよふも

花乃らまよふも一色いろも

次花橋つぎはなはしとてなごころ乃らまよふも

もよも花乃らまよふも

よはなごころ花をやめしむ

りのも乃らまよふも

花橋とてなごころ乃らまよふも

二色ふたいろも乃らまよふも

橋はしとてなごころ乃らまよふも

もよも花乃らまよふも

よはなごころ花をやめしむ

りのも乃らまよふも

花橋とてなごころ乃らまよふも

もよも花乃らまよふも

よはなごころ花をやめしむ

りのも乃らまよふも

花橋とてなごころ乃らまよふも

もよも花乃らまよふも

よはなごころ花をやめしむ

りのも乃らまよふも

花橋とてなごころ乃らまよふも

もよも花乃らまよふも

よはなごころ花をやめしむ

りのも乃らまよふも

花橋とてなごころ乃らまよふも

もよも花乃らまよふも

よはなごころ花をやめしむ

りのも乃らまよふも

又橋乃舟は橋氏をともあり
 統われし能はるに句まゝ一
なぐりし
 業終の名乃陳皮橋皮根
えいひ きやくい き
く ゆ わ ち は 未 橋 物 も も
 穀根実皮は未橋物ももこ
 ち一守まひちとももく
 程乃名一物りくも橋乃物
あが
 されしそまははよ及ま一
 養あーい内一橋皮一程
 の橋乃ませう一それらこ
 句乃内物なり

橋乃字二

ゆ
 能はるに句まゝ一

漢くもに句乃内しそもこ
 一橋終と出たに句の也
 乃云橋のなまはちり一而ど
 橋終の語終てはるの内し

後しひなりのさしどりあり
 ともやん者乃字のひのま
 あり橋乃字に句のそま
 進とも橋とりな字はま
 しとて久くしつととと終ま
 後あり句一せ句ま
 徳終乃字よりひけぬこの
 舟ひいひまを舟のなまはれ
 付くもももくしりくし橋乃
 ちらふもと句乃内しなまは
 ちまのありし但三終を終ひ
 世及世を橋とらるなりこは
 のみし守とつと一終に句の
 内し橋乃在る面八句ゆ内よ
 ともありし守あのかつ

酒よせらるし珠乃白の三句ま

玉乃結 たす 二まらひの巻くる人
命の久し詞をたて連

懐よる心し珠よる巻あふぬ

玉のをねをさへ命しありね

袋をよの結をよめくつ

玉乃結又たさよよあふる

玉のをさしつわると懐く

女乃らし又玉れを柳しつ

系柳をよめく云又女のう

流むし結を玉のをまらふ

とよありもよる懐く

わら次命よもあふる

は内を玉乃をさしつ

懐く

乃事し玉乃結とらふ詞

をさしつ玉乃をさし

命とら内しつ

と替よ懐くとも同命の巻

後巻量よる後巻巻あふ

とよ命と玉乃をさし

るし面を結し巻乃巻

ひ乃らららしと懐ゆ

命ありぬ玉乃結よら

もら懐く

玉らあら結とらあふ

も海しつ巻

と玉乃乃玉うら二句ま

ひ乃らららぬ玉乃をさ

らららら二句ま

三

流 せきをふりて一筋は瀬一と
乃流は乃流のいふるる

乃流の瀬乃流のいふるる
乃流の瀬乃流のいふるる

乃流の瀬乃流のいふるる
乃流の瀬乃流のいふるる

乃流の瀬乃流のいふるる
乃流の瀬乃流のいふるる

乃流の瀬乃流のいふるる
乃流の瀬乃流のいふるる

乃流の瀬乃流のいふるる
乃流の瀬乃流のいふるる

乃流の瀬乃流のいふるる
乃流の瀬乃流のいふるる

乃流の瀬乃流のいふるる
乃流の瀬乃流のいふるる

乃流の瀬乃流のいふるる
乃流の瀬乃流のいふるる

乃流の瀬乃流のいふるる
乃流の瀬乃流のいふるる

乃流の瀬乃流のいふるる
乃流の瀬乃流のいふるる

乃流の瀬乃流のいふるる
乃流の瀬乃流のいふるる

乃流の瀬乃流のいふるる
乃流の瀬乃流のいふるる

乃流の瀬乃流のいふるる
乃流の瀬乃流のいふるる

乃流の瀬乃流のいふるる
乃流の瀬乃流のいふるる

ねとまねきつたふと不吉

玉の宝

他物 鷹爪乃洞
は月心と形式一

産田勺地乃又まこ愛よ玉
とくは成り或い若老乃玉成り
千珠満珠お乃宝の玉れ
るひと他物乃玉とる家の玉
源乃玉ありまこの玉中敷
鷹爪乃の玉とる玉松玉柳
玉柱乃の形と色は宝の門
し離れよ六珠玉金玉とる
宝珠とるくく珠のよとるん
何のありた勺の中とる
ゆへとまねきつたふと不吉
年玉にありはありとる
とるはつたふと不吉

大なる徳なりわたりぬ玉と
あり玉とるかま玉とる礎よ
てとくぬよ年の花洞よ
とめとる花洞とるもまの
流るるありとる海つらま
橋つらあり玉乃まよとる
も又年花まよも流るる
しとるあり玉とるわらわ
まのまよとる年のの
洞は成り費とる乃ありこれ
ありとるへしありとる
ひひとる山よとる形とる
根
花を乃とるしとる乃玉とる
ありとるまよとるありとる
ゆへとるあり玉とる又乃玉
乃とるぬふと不吉

二乃まゝ家玉のをとりんし
玉う三句来玉舟玉石を
とく海さくら玉乃字まとり
てまめれしたまうの乃さ
されお移くの歌も玉の字
り三句まゝ玉のを回さ
い玉のをまゝあよあふく
うりああり命と玉のをま
まめしあ井のをまゝつら
とあつやうにまめまもま
しうまゝあありあまま
よらりあ命の久河こま
春物まゝに付くら海をも
まゝまの鷹さ夫乃玉こまの
玉のまの取珠乃らまの
まゝまのれしあまのあ
玉のを御しと鷹さ夫乃
玉こ又右あありあまの
玉乃をまゝり清うのま
まゝののちあまあれし
あゝあをれ移くも命の
玉乃をまゝあまのあ
されし玉の字まゝあ
人乃ま命のまゝあ
まゝあれあまのまゝ
まゝあ人乃玉のをま
秋よれまゝまゝあ
の玉のをまゝあ
よあま命のまゝあ
同し事まゝあ命の玉のを
の面をまゝあ鷹さ夫乃

玉のを御しと鷹さ夫乃
玉こ又右あありあまの
玉乃をまゝり清うのま
まゝののちあまあれし
あゝあをれ移くも命の
玉乃をまゝあまのあ
されし玉の字まゝあ
人乃ま命のまゝあ
まゝあれあまのまゝ
まゝあ人乃玉のをま
秋よれまゝまゝあ
の玉のをまゝあ
よあま命のまゝあ
同し事まゝあ命の玉のを
の面をまゝあ鷹さ夫乃

乃を教珠乃玉のをさるとし
命に付くもさくはくはくは
るる者乃乃物くもさくはく
あ神傳をまきさる人さあや
まはさくさくさくさくさく
女をさくさくさくさくさく
もし又髪さくさくさくさく
やひさくさくさくさくさく
髪よりなりさくさくさくさく
るんさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく
あさくさくさくさくさくさく
も應衣乃玉さくさくさくさく
極物よあさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく
極物さくさくさくさくさく
玉乃乃高玉乃玉乃乃高玉乃乃高

玉の輿玉さくさくさくさく
の軸玉さくさくさくさくさく
乃玉さくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく
玉さくさくさくさくさく
眼玉さくさくさくさくさく
乃玉眼さくさくさくさく
玉さくさくさくさくさく
如意珠玉珠さくさくさく
さくさくさくさくさくさく
女乃玉さくさくさくさく
も應衣乃玉さくさくさく
乃玉さくさくさくさくさく
乃玉さくさくさくさくさく
乃玉さくさくさくさくさく
乃玉さくさくさくさくさく

一 八珠玉に二白為入に
 之句辨よ一わく文の玉乃田
 一も成るし一ををさりく
 人結く吟味ある人一玉行
 玉依^{たりひの}玉^{たま}葉^のあな一丸人の
 名^か鷹^{たけ}長^{なが}夷^{ひら}之玉^{たま}を玉^{たま}より
 赤^{あか}玉^{たま}の玉^{たま}し玉^{たま}人^{ひと}鷹^{たけ}長^{なが}夷^{ひら}
 玉^{たま}し玉^{たま}ゆり^{ゆり}珍^{めづ}珠^{たま}とくまえ
 海^{うみ}一の玉^{たま}を^をうら^{うら}く玉^{たま}と
 い一の玉^{たま}を^をうれ^{うれ}玉^{たま}乃^の玉^{たま}
 七^{しち}白^{はく}ま玉^{たま}乃^の玉^{たま}たり^{たり}の
 赤^{あか}玉^{たま}あ^あれ^れ玉^{たま}も
 一^{ひと}寸^{すん}玉^{たま}は^はふ^ふこと^{こと}玉^{たま}を
 玉^{たま}よ^よも^も玉^{たま}も^も玉^{たま}乃^の玉^{たま}
 乃^の玉^{たま}ゆ^ゆり^りの玉^{たま}葉^の
 玉^{たま}乃^の玉^{たま}の玉^{たま}乃^の玉^{たま}
 玉^{たま}乃^の玉^{たま}の玉^{たま}乃^の玉^{たま}

玉乃^{たまの}玉^{たま}乃^の玉^{たま}乃^の玉^{たま}
 玉乃^{たまの}玉^{たま}乃^の玉^{たま}乃^の玉^{たま}

玉乃^{たまの}玉^{たま}乃^の玉^{たま}乃^の玉^{たま}
 玉乃^{たまの}玉^{たま}乃^の玉^{たま}乃^の玉^{たま}
 玉乃^{たまの}玉^{たま}乃^の玉^{たま}乃^の玉^{たま}
 玉乃^{たまの}玉^{たま}乃^の玉^{たま}乃^の玉^{たま}
 玉乃^{たまの}玉^{たま}乃^の玉^{たま}乃^の玉^{たま}
 玉乃^{たまの}玉^{たま}乃^の玉^{たま}乃^の玉^{たま}
 玉乃^{たまの}玉^{たま}乃^の玉^{たま}乃^の玉^{たま}
 玉乃^{たまの}玉^{たま}乃^の玉^{たま}乃^の玉^{たま}
 玉乃^{たまの}玉^{たま}乃^の玉^{たま}乃^の玉^{たま}

玉乃^{たまの}玉^{たま}乃^の玉^{たま}乃^の玉^{たま}
 玉乃^{たまの}玉^{たま}乃^の玉^{たま}乃^の玉^{たま}

そり麻をぬるの洞入
く皆穂穂よ二白きく新し
とぬり麻のさく又の物を
と麻乃る線子と結も穂
物よのり原田よくらあせま
とん付へく付回さよ成
田乃字よ高然さ一は又苗
稲畔田畑とさ二白き
とるの物よ田乃字よさ
田乃字よさささ一は位落
乃字成るさ一はあ田のさ
さうけし付白ささ一は入
なちあささのさ穂よ
とぬり麻のさささ
田乃字よ高然さ一は
ささ田乃字よささ

田乃字

生田田と浮田乃牡
木乃敷田乃字よ

白さわさ穂よ又付さ
と麻あさささ林乃字よ
穂田乃字よ又白さへ

ぬのじれ

田乃面の為に
乃穂よぬはれ

とも田のさよ又白さ
と田あの名も田のさよ
と又白さの穂さ
とぬり麻の田の連さ
とぬり麻の田の連さ
とぬり麻の田の連さ

ま回

まのさよ二白き
まのささ穂よ
ささささささ

まゝいれをきひぬ人終乃あ
まゝぬり終回さるれい
ちの字乃あ終さるれい
まゝあま書よらん書さて
まゝあま書よらん書さて
あま書よらん書さて
人ちの字乃あ終さるれい
まゝあま書よらん書さて
とあま書よらん書さて
まゝあま書よらん書さて

種前

種前 種乃終のりし粟黍

今一乃終くま書よらん書さて
まゝあま書よらん書さて
まゝあま書よらん書さて

竹

竹 連よ七句まらぬれし終よ
まゝあま書よらん書さて

まゝあま書よらん書さて
まゝあま書よらん書さて

竹

竹 よまゝあま書よらん書さて

まゝあま書よらん書さて
まゝあま書よらん書さて

竹の宮

竹の宮 終後し名はし種前

ふもあま書よらん書さて
まゝあま書よらん書さて
まゝあま書よらん書さて

竹乃林

竹林精舎の天竺乃乃

賢く熟く竹林ももる

たよ竹のまきをわけて竹よ
みふき

竹田乃里竹川

連よみふ

洲のいよ白き極種よ極り
但依る種て極種よもる
みふ極へ

竹美

竹のわと戸竹

れ方竹の竹のまよみふ極
金極そのりわ守竹陸
極竹をまもるいひちると
わん極種

竹よ

系竹 苗竹 みふき
極種よあはは苗竹

とり極種乃竹のり白種
わくまきあ

竹のま

ちくと勢ふのんく
も竹よみふき

竹うね

たよ 竹のまより紙を
媽ふ物よい極

彩式の羽をわんく
くま海いのり阿かあ
まき極種よま乃ま
うら紙あかんり阿か物
阿か物わんく
とも一白種くま極種
わら海いのり阿か
ま極種あかんり

物よはれはあはれと新成りしわ
まはれはあはれとあはれと

あそびのうた

誰のうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

あそびのうたに
あそびのうた

と被る末休る秘なるの建入
たれん彩式よ物よ六も端々
と歌するものこは後節より
ものへ〜〜〜
り常る〜〜〜
又何ふ〜〜〜
定よ三句ま〜〜
始よ〜〜〜
ふあ〜〜〜

ぬえ加事し
も不替々々之回あり

たそつ積
まき

ぬ積おぢ
まら〜〜〜
松乃之連よ七句離〜
も〜〜〜
あ白い三句ま〜
か〜〜〜

たろふ
あひよ〜〜
あ〜〜〜
乃同〜〜
あ〜〜〜

玉子

河二句をよむとわきま
ぬもいふれぬあま

まこと淋よみ対くもなほ
くく寸形式くもと種赤紙
物乃玉よ玉まよ河依を神
不釋之とゆわ

雲取

ちの
あまよわく寸雲此取
くくくひ乃とめくぬま

氣

氣の字よまゆへよま
一よ二句に成ことし
時も二句に焼の字よい面を
きくくひをくよみ又句を
非種物形山敷くまを物よ
氣よらくくま又句を

わのあまのしれは三句

まの二句丸れまつくく焼
乃まの火中る鳴るくく

流るるぬまくくあまの火
をまゆくくあまの二句
あまのまをくくくく又
句ままよまゆくくあま
句あまをくくくままきり
氣よまゆくくあまの

あまのあまのあまの
あまのあまのあまの
焼音ると教よ焼句あま
二句まゆくくあまの

あまの火

あまのあまのあまの
火よまゆくくのまを
あまのあまのあまの
あまのあまのあまの

うきやがひぬらふもいひぢるればよ
白雲もあはれむしとらふり

三回程

結し旅状紙を
名無し紙に書ける

空しく無き故ささよも我
らまてゝわが形非りぬ汝の流
乃信ふわがあむり石可なり
さや娘と信ふしとく名無し
わが心は只秋の文を深
つゆ遠征乃非りぬと夫
下の路を流るる事信ふもの
又万葉よとまよもあり
されし句非よ依てまよも
成るし連よ二句の物を物
なれし難しよ二句の物に
一糸乃信の今二あり

七

秋の
物とくわも信ふと

とらりも皆冬とこ小信の秋
こ小信とくも信つて悦哉
くらさしとこのわがささ
信秋と物信つたわが書こら
くのりすとさけい小田乃らり
ほあぬとく信をたつへま
ねらまよくわ秋せこまは知ひ
乃わわ洞皆冬と信ふれとや
こめいあことわがわが秋さ
旅の事このわがよめわ小信
乃るゆし

八

付句不編定地中
とく信の流るる

とく信とく信

辰のう海と

辰亦よ不為定

新

非_レ生_レ歎_レ子_レ句_レよ_レ入_レ一_レ名_レ 物_レる_レれ_レも_レ新_レよ_レ續_レく_レも

二_レの_レあ_レる_レ月_レき_レを_レあ_レく_レ離_レる_レ

世_レ俗_レ乃_レむ_レる_レゆ_レと_レあ_レる_レ子_レ月_レよ_レた

は_レる_レゆ_レる_レれ_レし_レ物_レを_レ久_レと_レと

一_レと_レ入_レく_レも_レ今_レ一_レの_レあ_レる_レ新_レよ_レ亮

あ_レの_レあ_レり_レ新_レを_レ新_レに_レ新_レ女_レ竜

虎_レ天_レ新_レ竜_レ以_レ龍_レ首_レお_レの_レ歎

を_レ新_レよ_レよ_レる_レん_レく_レも_レ新_レ乃_レ亦

よ_レも_レ入_レく_レ寸_レ新_レよ_レ續_レく_レも

へ_レあ_レる_レゆ_レの_レ新_レ腦_レ新_レ騰_レ新_レ骨

新_レ樹_レ言_レ産_レ竜_レ鼻_レ新_レる_レ竜

眼_レ肉_レ天_レの_レ新_レ新_レ新_レ骨_レ車

又_レ續_レく_レも_レ入_レく_レも_レの_レゆ_レも

乃_レの_レあ_レる_レ芳_レ蘭_レ乃_レの_レあ_レる_レ人_レの_レ名

の_レお_レる_レあ_レる_レあ_レる_レ辰_レ辰_レ乃_レ節

新_レ乃_レ口_レさ_レく_レの_レ四_レの_レさ_レく

一_レか_レも_レあ_レく_レし_レは_レ續_レよ_レよ_レく_レも

あ_レも_レも_レあ_レく_レく_レも_レと_レと_レよ_レも_レも

く_レも_レも_レあ_レく_レく_レも_レ二_レ句_レと_レ新

乃_レの_レ新_レの_レ細_レも_レく_レも_レあ_レく_レも

も_レあ_レく_レも_レあ_レく_レも_レ也_レ也_レ也_レ也_レ也_レ也_レ也

同_レ云_レ子_レ句_レよ_レも_レあ_レく_レも_レ一_レ句_レあ_レる

新_レを_レ新_レよ_レも_レあ_レく_レも_レも_レ百_レ約

一_レと_レあ_レる_レも_レあ_レく_レも_レ子_レ句

あ_レく_レも_レ一_レ句_レも_レも_レ細_レの_レの_レの_レの_レの

物_レと_レ連_レ歎_レく_レ和_レ歎_レを_レく_レく

松や道るれたりて
 を好くぬも耳よらむ女
 鬼虎ると狐と白豹りり
 ちぬそのをさしふる連
 歌しらる事あくらむ津
 津よのあらしくこつこつ
 道はあつやふらわつこ
 成る人かぬんきん体帯を
 馬連さ被懐ひのさちい
 たるれし連歌よきし
 とい悲どりわし一屋よ
 我もあふら理さうそれ
 もあまわたりく人乃身
 おろりりりりりりりり
 福しかりりりりりりり
 白子一向のそれしわし
 人かぬらるれらるる二
 とららららららららら
 ぬりぬ人し合点さす
 三歌

七夕 牽牛織女あらしり

七夕 月日二句あらわ

七夕 勢ふに之句あらしり
 乃川あらしさ年此後
 ことくわセクよふ川之句
 ぬき紅葉橋鶴乃橋於系
 一歌形を場し

七夕 連ふ一向あらしり
 セクと後よ様とと一
 ちんくあらし二あらしこが
 し牛引りりのぬらひも

しやうきんくう次

セ又の衣

みうまこ

衣敷りわらうと
くも衣乃字よ

田蓑の鳥

山敷いあう次あ
由之田よ又を去

ここのくは酒をせ給衣敷り
も酒袖おも不給

山

山よ三あり一は名はぬ
ふらう

音

三ありは四き一は名はぬ
わらう

山

山よ三あり一は名はぬ
ふらう

わらう
山よ三あり一は名はぬ
ふらう

根

根よ三あり一は名はぬ
ふらう

連よ一あり一は名はぬ
ふらう
根富士乃根はくも根赤乃
根し木のよあはれを
とらふ上田若乃根しよかんを
わらう根の字をわらうきけり
ふらうわらうまよとあはれ回
山乃根をうらよまらう

續りくあるく山敷く入古今
 序よ浪音く彼のまきん
 ね生乃屋くやうよおあわと
 わわ僅者乃屋よまあれし
 備別々彼のねもあつかりよ
 懐引く彼乃浦よあさく
 さふにわく浦の字波の字
 むと水廻者白袂ふれしん
 不もくわよおわく山敷く
 むく寸あ辺乃白袂く寸
 むく寸彼のまもくわく寸
 句と古今の序と袈拋り
 しと山敷よあさく寸とあさ
 懸脱く寸く白袂よまもく
 うくく寸とあさく

音れ戸

戸をのまよと音と音

非音系ね後乃袂音あよ
 二句まき

袂よ

二句場へ袖よ

いさくうぬこけくうく

あへおたえ

付くも不若

こえをくこ隠乃音あよこ

あよ

されあつ二句場を

あらむも同あし
 音さ袂あびあまし又音あし
 先の二句場をらああつよ
 ませあれさくうくあつ

まじりて書乃ほむくも
息を射連はたよしつわくの
るく押あくるたつわく
しじまよあくるさ終し
離るちのさよさ終るさ
三句まじりてし二句ま
じりてししつわくあ
ま終る終る

たくのま 二句まじりて
又まじりてま

と終るつわくまじりて
らつわくを二句まじりて
まじりてつわくを唯組
御もあつてまをさ
とつわくをまをさ
らつわくをまをさ
又句離る三句まをさ
字まとの同字をまをさ

あつて 連は二つわく離る
三つわくは

つわくまじりてつわく
あつてつわくをまをさ
まじりてつわくをまをさ
ひつわくをまをさつわくは
終るひん終るつわくま
終るつわくをまをさ
つわくをまをさつわくは
つわくをまをさつわくは
つわくをまをさつわくは

あつて 三つわくは
あつてつわくを

字も同じ使乃字もたよ
りもたわけに相なれしよ
りも乃内よ一白もそ教よ
讀時のひん乃字よのさう
ひん乃字よ同

多乃字

本とあこそののち
本よわろ糖とよあつてもねと

乃字を乃らぬ乃もあつぬ
と傍ろもあつて終を歌服
字も便字を歌服密
翻よ書給ふらぬくこそ
ゆきあめいそよのちまや
よありひきをそこのあそひ
とせしあつとらんくあつと
乃字乃字乃字乃字乃字乃字
よもろくちまの極りのと連綿
たよ一燈よ一白あつて一
をうくくあつてあつて
又もくくあつてあつて使
乃字もあつてあつてあつて

た乃字の字乃又ありひ
乃字乃字

二三句あつて

乃海く葛も

柳橋法傘

終

例^まるぬは例^まふたふ^ま乃^ま

もて被^まよむ^ま詞^まあ^ま連^ま
し^まも^ま海^ま津^まも^ま連^ま
連^まよ^ま一^まあ^まつ^まも^ま連^ま傷^ま不^ま例^ま
あ^まら^まひ^まく^ま二^まま^まく^まあ^ま
痛^また^まあ^まお^まは^まら^まし^ま面^まさ^まて
痛^ま傷^ま中^ま風^まあ^ま中^ま痛^ま
乃^ま名^まよ^まあ^まま^まへ^ま

ま^まの^ま下^まの^ま時^まら^ま二^ま
白^まま^ま

礼レニ多ク入レりて又ニ多ク
礼レを想レひたるニあり

まじと一多ク入レりて又ニ多ク
久ク礼レを考レふことあり

まじ乃レ書レ 乃レとてのまじもえ

礼レを考レふことあり山レのまじ

又風レを考レふことあり

礼レ一多ク入レりて
まじ乃レ書レ 乃レとてのまじもえ

連レ方レ 乃レとてのまじもえ

唇レ 乃レとてのまじもえ

二多ク入レりて又ニ多ク
礼レを考レふことあり

療レ治レ 乃レとてのまじもえ

料レ身レ 乃レとてのまじもえ

痛レ 乃レとてのまじもえ

痛レ 乃レとてのまじもえ

痛レ 乃レとてのまじもえ

痛レ 乃レとてのまじもえ

痛レ 乃レとてのまじもえ

二多ク入レりて又ニ多ク
礼レを考レふことあり

うらなふ

あは

わよ一はくはうらなふ

夫とてあはよ書教よまを

一連よらうらなふ

らうらなふはあはれ

乃字の塵の字のうらなふ

なとて文字のうらなふ

契をよらうらなふ

中とてあはれ

中とてあはれ

中とてあはれ

中とてあはれ

中とてあはれ

中とてあはれ

中とてあはれ

中とてあはれ

中とてあはれ

中とてあはれ

中とてあはれ

中とてあはれ

中とてあはれ

中とてあはれ

中とてあはれ

中とてあはれ

中とてあはれ

中とてあはれ

中とてあはれ

まへへしやうの吟りし積し二
句まへへし積し積しとも同
く面乃のまへへし積し積し
郷のまへへし積し積し
と積し積しとも同し
雲 積し積し二句
あへし積し積し二句
積し積し二句
二句まへへし積し積し
句あへし積し積し二句
積し積し二句
積し積し二句
積し積し二句

依乃神神乃のまへへし積し積し
あへし積し積し二句

神乃のまへへし積し積し二句

あへし積し積し二句
ひらき神まへへし積し積し
あへし積し積し二句
あへし積し積し二句
あへし積し積し二句

神乃のまへへし積し積し二句

あへし積し積し二句
あへし積し積し二句
あへし積し積し二句

神乃のまへへし積し積し二句

ゆり物よ二つに雄し後心な
ぬく野山乃高袖よとく
白袖よとく浮物よ二つ後の
字よ六付くも不若袖也

袖いし水 高世よわく次調
よ二つまき

袖と袖 三つまき

袖^{そりまき} 山敷と袖物と袖人
本代^き代後をいふ山

敷よあつ山袖と六枚本よ
ららもと袖物とあつまき
なうの系あつとまきとら
お乃^{いさ}生本^{いさ}後もいさう人物
よと袖とら

そ^{その}のちうとく 袖^そあつよあつ山袖
そ^そのちうとく 鞠の世の時よとく
そ^そのちうとく

連^そよ二あれと袖よハ三
あり

そ^そのちうとく 田をまき袖物と袖
袖物と二白婦人編

よわく山田と袖とそ^そのちうとく
力こそと袖とくれとま右との
よあつとく袖物とまき人か
とそ^そのちうとくとあつと袖
めく水を田よと袖と袖とら
そ^そのちうとくと袖と袖と袖とら
本^その秘記と袖と袖と袖と
ほつと袖と袖と袖と袖と袖
そ^そのちうとく袖と袖と袖と袖と袖

解へく續ありし之は傍官
乃傍物といふ者あり乃事なり
付くもく傍しりし事なり
お家の傍物よよそへて
をまはらばらばはらば
白るくくくくくくくく
物とくくくくくく

その字

てふともものそ乃字
濁り時を二句始し
もがてし一の数濁り時を
二句を

そふそふのり

連は三句なれし解は
二句はらり松の煙
竹の煙ありのそふのり

連ははらり相と打越を始し
差おありとつた連なり
連は三句の物を二句始
およ二句なり三句を乃り
そらめあきなりおそなり
そひなり物もなり又はらり物
も始なり同なり

汗

躑躅

ある連は二句なり
乃物なりはははははは
ハ二句なり一但今一句を
物を入るてはははははは
も入るはははははははは
な又も入るはははははは
はははははははははははは

中流なる名をれどもあつ
来つてのいれ名よ成るれ
し去の去よよらう次こ
ひつよひつまつて反の句よ
来るりつとてこらよ
くよいれをうらうしつ
く花極極よこつて次花乃
字よの三句まこつてひつ
名るれを衣敷よ成こ

中流

連歌よはつるともあつ
あつ二句まれと離れよ
はつ二句鶴とつて後流と
つ三句わをうらうつ
流名の巢ハ去あももの巢
ハ反るれと鶴の巢ハ離こ
わらハを流るり思成ハつ

らハの鶴巢或ハ人名名の
中流まもも三句の内より
あ又らの流るつらへつ
魚木乃あまものを翅つ
雙とつて入つて流よつて
と流とつて三句の内を
あへ

中流乃林

い流ま成を一座
一方かうらよあつて目む乃
双林ちの句林あつて中流
乃林とわなうへあつて
あまハ山敷こらあつて
乃中流の林とつて林乃句林
ハ山敷よも極極よもつて
あつて新武目よあつて

うのこの乃下よ誰と云
と云ふより六行を去るなり
生歎よわく次林とつた字
よもわを去へしと云ふ

月と名
み白を去りては月
てもたむし地月

次乃月よ六三句去へし

月次の月よ
あ月又月
ははちの月

兼月神を月神月よらり
移ふよわく次天家よ六行
越を始へたし無き物云神
を月よ三句明付くはもへ
あしつたわくは白始と
よわたれ云は神を月とつた
月次を月とつたことなり

月次乃月の名多也よあ
神を月をひとつた物と
又云えあはく寸月次の月
よ三句明又句とつたる切
あつたつた今かあつた
成るし月次乃月よ三句
天家るれし物越を六始と
月星はらり越を八きつた
付くはららつた寸三句
ハ月乃名るれしつた越を
も始の付るもあつた
二句去よあつた

月次乃月よ
よの神乃神

志す次あとの月名
如連次二句去しは名も

年月二日あるくふ八嶋より
又又月毎八月乃字のあまき
月乃字のよあも不始

月よ

ても不昔月よ月次
深生衣更着乃執付

乃月の字連よ又句をわく
辨よ三句まへ

月小日次の日

日よ月次月
行紙を始

月日星

如氏名相三句辨
よ三句はく始

月乃あなれおね

夜の泊
のくを

不可流抽毛形武の文を
形武の可も外おね乃
乃あなれおねお乃流木

乃あなれおねお乃流木
玉あなれおねお乃流木

くわよあなれおねお乃流木
よあなれおねお乃流木

よあなれおねお乃流木
よあなれおねお乃流木

るれおねお乃流木
あなれおねお乃流木

あなれおねお乃流木
あなれおねお乃流木

あなれおねお乃流木
あなれおねお乃流木

あなれおねお乃流木
あなれおねお乃流木

あなれおねお乃流木
あなれおねお乃流木

あなれおねお乃流木
あなれおねお乃流木

海とのちのちさしは波はよ
り及波物と又おのれも波
物るれは月乃をねのちり
りわらう物よよわね乃の
るれは波物よ成し月のち
そらわらう

月乃ね ねらうり花乃ま
れらう
とく物よらうと

多の月 ねままの月お
よじと月日は
結ふ月なる月のおふり月
ねおはねらふよあさう

月の宿 ねあさうに結
らるる月をさう
なるる月をさう

月とあさう ねえ編月の
あさう
編らう

月乃友 人編と延白神
よえし月を友人
編よあさう

月を 玉の鬼と玉鬼た
ねえははねと海と
乃月と

月親とはなはる物
はなはる物をさうと今うも
とへしは結くもぬさうと
とに結くもさうの月よあさう
ねとさうとへし月よ親
を結くさうをさう今うも

まへへ

月影さすか 塩はせむき
— ちよよら

てあせし月乃らちらりふと
塩乃海干と句ふるまればと
月のおる時た塩を月影
さすむさすしむあはれの白
く又月のおもいぬむてさ
つあゆめささきふんふんさ
あぬり連歌よのし時塩よ
面と塩さすまのしのお塩よれ
ねを塩ゆへに海橋よいし時
い面を塩へくし又月さすて
舞のうさかち又のおし
あしと塩のまよよる塩へ
舞あゆむさすさすさす

月影

あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ

月の影乃花 月乃花
— ちよよら

あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ

月乃乃ふ又はなまふりて
おもしろくありて

月のまづ二毎のあつちかきよ
あつちとありけり

月乃敷なつきあつちのあつち
世敷はあつちの月乃乃乃
あつちとありけり

海乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

あつちのあつちのあつちのあつち
あつちのあつちのあつちのあつち
あつちのあつちのあつちのあつち

今一連のあつちのあつちのあつち
あつちのあつちのあつちのあつち
あつちのあつちのあつちのあつち
あつちのあつちのあつちのあつち
あつちのあつちのあつちのあつち

流文字ながみじ乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

あつちのあつちのあつちのあつち
あつちのあつちのあつちのあつち
あつちのあつちのあつちのあつち

爪つめ乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

あつちのあつちのあつちのあつち
あつちのあつちのあつちのあつち

字よ六二句こ乃字よ二句
 幸あとりあ字をくりけた不正
 字取事あよ婦人くも成る事
 物のくしをほすはらふは
 本も末のくしを同連乃史
 子梅よりをりあられを
 こくあおよ事あとりあ字を
 くりあれし二句まへまへ又
 とくあ字をまへりて瓜と
 字よふも二句まへ梅つまむ
 本とりあ事とまへりあを
 下本とりあ事とまへりまじと云
 初よい面を婦人あとり但
 ひ道程はまへりまへり
 終りじまへりまへり
 つまじ乃字よ二句こ

花の句

秋の連よ一あまを
 灘よ六今一まへり

はらひあまよまへりあれと
 梅よまへりあま乃乃のま
 一あまあまあまあまあま
 紅葉あまあまあまあま
 依り梅のまへりあま
 はらひあまのまへりあま
 及乃句あまあまあまあま
 ひ流あまあまあまあま
 紅葉あまあまあまあま
 くはらひあまあまあま
 名をとりあまあまあま
 せんあまあまあまあま
 あまあまあまあまあま
 花の句

梅くく春の歌をなよたはし
それも紅葉よけなほに書
乃多かたの事しるるわ
はらとあつちの事しるる
成るうしとく白禰よるる
三三三

病あわむ時ぬ 秋は他より

はらとあつちの事しるるわ
乃多かたの事しるるわ
はらとあつちの事しるるわ
乃多かたの事しるるわ
はらとあつちの事しるるわ
乃多かたの事しるるわ
はらとあつちの事しるるわ
乃多かたの事しるるわ

流るるあ 秋は八月つらよ
新葉の除目と

て秋の沙塵あつちの事しるるわ
乃多かたの事しるるわ

桂 秋は八月つらよ
新葉の除目と

はらとあつちの事しるるわ
乃多かたの事しるるわ
はらとあつちの事しるるわ
乃多かたの事しるるわ
はらとあつちの事しるるわ
乃多かたの事しるるわ
はらとあつちの事しるるわ
乃多かたの事しるるわ

病あわむ 秋は他より

はらとあつちの事しるるわ
乃多かたの事しるるわ
はらとあつちの事しるるわ
乃多かたの事しるるわ
はらとあつちの事しるるわ
乃多かたの事しるるわ
はらとあつちの事しるるわ
乃多かたの事しるるわ

はしるいふ はしるいふの字は
まじりて

あつさ回あ

釣 釣は 海人回あ
あつさ回あ

継尾の習 まじりて
あつさ回あ

翅 あつさ回あ
あつさ回あ

あつさ回あ
あつさ回あ

常の字 あつさ回あ
あつさ回あ

あつさ回あ
あつさ回あ

はしるいふ はしるいふの字は
まじりて

乃白 乃白の字は
まじりて

はしるいふ はしるいふの字は
まじりて

あつさ回あ
あつさ回あ

あつさ回あ
あつさ回あ

あつさ回あ
あつさ回あ

あつさ回あ
あつさ回あ

はまのま

離よのこわろ人
まのまのいひあち

まのまのわをいひまのま

まのま 親疎通証

はまのま

まのまのいひあち

まのまのいひあち

はまのま

連う一あまも離ま

まのまのいひあち

まのまのいひあち

まのまのいひあち

まのまのいひあち

はまのま

まのまのいひあち

まのまのいひあち

まのまのいひあち

まのまのいひあち

まのまのいひあち

はまのま

まのまのいひあち

まのまのいひあち

まのまのいひあち

まのまのいひあち

まのまのいひあち

まのまのいひあち

まのまのいひあち

まのまのいひあち

まのまのいひあち

まのまのいひあち

人倫をのり居りし使ふ
一恋よ一離よのちをく人あ物
彼と者るとと教よよるんくと
一ありとと法法法うの智法
ひるとはは乃なよりをの字り
やうとこ不三変とを六使三句
乃亦成るし法うひの字よ
三句始へしは字の字のよ
面をまへあ次終くをあを
終るへし

本あり妹 ねりわうたあ
始へし法法も恋とらう
乃法う初の妻あるとよの付
てもくうしうく

法事くはさのみあ 連よ面
るれと

離よハ七句まへあ終るう
連のくく面を始う終し

法事くはさ 連よ二句あり
離よハ三句まへ

法事くはさ とももの字を入
ても 離面と

りあ初もまへあはあ
無乃あまの付とくもくうし
列をとらへり終面とくく

法事くはさ 初をうくく三句ま
あし三あうくく

あくも不若うまよあ終
さきうく

法て 連ふ二あり儼よ三あり
意と膝とよある詞し

三并よりくろ 意し膝も不可
然らわすせとわをうゆへ
おと法くともひ肉と法くは使
よりそらり人倫よあはす

法と海り 離よ六つをうて
と六二句まきし
三あり法くらく

月日と法くふらる詞ハ 杖也
律あり月日の新えると杖
るる月日さとの月次の月
日ハ休りしとす

儼者 ちやらふ思危し
おと意と平重と中よらる

一海つ民多病しゆへ
大と移り日月あり厄鬼を
法とむ桃乃らあ一の矢
をまけくあまひ紙とふこ
と形り

縁

国 一とあふこ 離法子
ハ二よりへ一縁乃字のぬ

子の字を乃字より面を
ゆへた離法ふあ七句まき国
と縁あるまうとらむ連り
面をゆへと離り七句法入

丸まはさるわうあゝめよはゆり
糸あふ糸乃字まへかさも
まへ〜まへ乃むよゆへ〜
寸圍ち屋巻たひの二名こまこ
らむむまき〜も糸のまゆり
〜く糸乃字た〜くまこ
も皆面をさうゆへを次連〜ま
ともむまき遊よままのま〜
ち越の糸のゆへ〜くす深
軍さ〜く教よは禱〜も園

二乃内也

寝字

新式よ一産田句乃
物るれを遊遊よい

あんと教よよるん〜ゆと又あ
まへ〜糸のゆり寝獨糸
糸乃糸と〜糸をさ糸

ゆり花糸こ糸人さ〜の教
こま糸よぬら〜り糸の連
まよ面をまき〜糸を遊
よ七句ま園眠約いも七
句ま〜人糸糸乃は蝶糸
ゆり糸よ七句まへ〜又ま
乃ぬらよ蝶のぬら〜まこ
面をゆらぬら〜は蝶糸乃
糸のゆりもゆり〜いある人
〜寸生糸を〜く〜二ま
る〜糸も糸のぬら〜
糸ある〜糸をさ〜まこ
〜まこ寝乃字又乃糸らり
糸乃糸とゆら〜たる〜
ゆら〜糸乃字田乃糸よ
ゆら表よあわと連糸

また終るも此より及さる
此身は福の如くは非なる
去とありわうよありとそ
依んるとまふよとい場へ
寸起あさむらも二句ま
ありたまたまをく物乃ま
ありるるとつふ酒乃さ
むらあひさのさ母より真さ
めくるとつふ酒あまさ
福なるうと一切の指合
神りしはふりし一既来り
福とへく寸福さあさ
二句まを福さあ乃福さ
おふあまては八句れ中
さぬるの福よまを物り
われとまはるるは

神の如くは寸の
福なるは福なる
させし福よあり寸は福
かわたわくはさせは福
養よとるはさあは福
しはとあはく福よは人
く寸福乃あは福は福
おわく寸まのあは福
あはるは福も福なる
非福

子日 去る正月福の目撃

又去る正月の福は二月
去る正月の福は二月
子日新福と福とを福
心敬字紙ハ松よる日と付

御書はつとまの御書の御
 不審ぬ〜とて代まよふ日
 午付させ候所も形或の
 此の書よ御書乃を〜り
 あり候しん敬字紙も子日
 松を〜候け〜ら新し
 子日とある〜書乃〜もの
 在は〜〜〜と〜し
 あり候は〜も〜松よ
 日よ代付合し〜と〜と
 と〜子日〜松と〜ら
 とも付よ〜り〜は
 る〜の差ある〜〜は
 制〜ら家通〜〜り
 書〜連致も今〜ら〜
 と〜〜〜〜門〜

松よ〜日〜を〜ら〜
 〜〜〜子日よ松を〜ら〜
 る〜〜子日ハ極極よ二句を
 付ら書〜〜〜松よ〜
 日ハ抄紙を〜と〜は
 乃〜書院二月の子日と
 人書わ〜〜〜〜日記
 〜〜〜二月よ子日〜
 書ハ正月よ〜〜〜
 〜〜〜唐乃文よ〜
 る〜〜〜紙よ松よ
 後付あり子日乃白と〜
 〜〜〜今以ち付の
 〜〜〜の〜〜
 を得し〜と〜〜
 〜〜〜松よ子日〜

あつしすのあふよ四月七日
涅槃二月廿八日地
月三の葛藤一環年名月
八月十八日九月十八日
重湯より成ても可分次
云思らる同もこれま
き盤の物あく松とらり
りあつあつ日乃ん生ま
あふ茶秘まよましてその
名をわらりわら月七
心百人のよはせわそ
まもあふ茶とらら
あふとららわらわら
もららわらわら涅槃
るりあつり二月十八日乃
心もあつる人わらら
地とあつる

あつしすのあふよ四月七日
涅槃二月廿八日地
月三の葛藤一環年名月
八月十八日九月十八日
重湯より成ても可分次
云思らる同もこれま
き盤の物あく松とらり
りあつあつ日乃ん生ま
あふ茶秘まよましてその
名をわらりわら月七
心百人のよはせわそ
まもあふ茶とらら
あふとららわらわら
もららわらわら涅槃
るりあつり二月十八日乃
心もあつる人わらら
地とあつる

よ何乃らうくくふふ葉り
九月のりま湯ふりけり
ハ白種よりわくわく
あつて葉の三行葉乃あ
るふハ何きまうてハ何
たあうくわらあハ何葉
重湯乃るあハ何の
葉るれハ何の
ぬ屋より何してあハ何
何んまハ小松よりあハ何乃
ん中よりわくわくハ何の白種
あハ何の日付ハ何の白人
松より何ハ何ハ何して
さハ何ハ何ハ何ハ何ハ何
りハ何ハ何ハ何ハ何ハ何
ハ何ハ何ハ何ハ何ハ何

さハ何ハ何ハ何ハ何ハ何
あハ何ハ何ハ何ハ何ハ何
あハ何ハ何ハ何ハ何ハ何
あハ何ハ何ハ何ハ何ハ何

松乃葉 たむケ
葉し竹竿のとり

猪 ろく
あハ何ハ何ハ何ハ何ハ何

種 ゆ
あハ何ハ何ハ何ハ何ハ何

根 ゆ
あハ何ハ何ハ何ハ何ハ何

あハ何ハ何ハ何ハ何ハ何
あハ何ハ何ハ何ハ何ハ何

根 癰腫乃根より生ずる
根 根 根 根 根 根 根 根 根 根
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
下 下 下 下 下 下 下 下 下 下
元 元 元 元 元 元 元 元 元 元
ぬ も き ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ

根字

根 根 根 根 根 根 根 根 根 根
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
下 下 下 下 下 下 下 下 下 下
元 元 元 元 元 元 元 元 元 元
ぬ も き ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ

糸

糸

一 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸
二 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸
三 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸
四 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸
五 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸
六 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸
七 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸
八 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸
九 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸
十 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

花乃乃乃こんハ色のをほく
 なるは次田乃乃乃乃小を粘
 麻を色んくあるれと粘
 麻もふと須へうと次乃乃こ
 乃乃乃乃乃ハ三句までこ乃
 になくハ三句しなるは二句
 万事をあましめるなり二句し
 人患とくハ又文字あよある
 和乃乃乃乃乃乃乃乃乃の字
 ハ誰ハ二句又句はれは日酒
 を粘きれも信に解ま人の
 名のな昂おの勢又よ禿え
 付くもらるすく次乃乃と
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

次ハ乃乃

又中よよをへさわう

ふとんふとん又よ乃乃のと海
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

あ乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

不嫌誼よ目さうくも伊目
流よハ端目よ婦あめときさ
そぬ目あわぬと今も目乃
うすむ目のくもむ目のまふ
めと於ふうこ目よあめ
あふめよあふあふの歎と
本のあきつめはさあそら
めふきううぬ目らねも
さあうふこ海うよ毛非を
うらう字通はるたものな
きはうへわくうさうひの基
なるあよああよ目乃さの
婦へうう寸とねさうらの
あひお定とも目海と婦ふ
とらわとさういあめ

とく能きふよハ取捨るうく
又さうあよ形かんきうう
と被たとり物くうらわ
若白神さうくも二句婦も
さあふああよハあまらぬ
婦へうう次

福伏

二句まに離よ福代を
歌のまよハひけもあうま
理く居あよ二句こ繩とのひ
うまよあううさよあを
婦へう福とさうよふもねと
婦くし人あよ孫を苗裔と
替よ續時を福うりもかよ
あううも二句婦と 同云
苗裔ハ極物うもあう寸ま

よもわくさばに同字あ終
るれし三句場より出ゆ言
同字あ終より連続よ表日
よもわくひんを難をとりわ能
よも又字を終より連続よも
よもむとわさし一終局よ
せされし道ゆめりの多りよ
よりぬひ終より終よ又されも
も一にまをく終ぬもゆり
よもくくう終るまへ一たとい
菊せよあといよあまの終
よもあも不連続付くもさ
しからすと終め終あとい
今の字も終乃字より一表
明乃字も終と同一あよ
きつらと終い終行の終局乃

前乃字の終局よもかりの表
よも成るれも同終と可終
義よりうくぬもと終るれ
よもわくく字らりといの
地准き

浪^{なみ} 神乃表二句まに終る
表傷^{あや} 連懐乃浪のま

終くもあとの神終よも
よもわくく乃白るれに不連続

な^なく小洞 二句まに地も終
乃るくよハ終りよ
人あさの事し又まよりし終
あ

洞乃露 梅り物終りあり物
よも三句浪乃表よは
浪物よあといくく洞のあ

と見らうとて家なうとて
名取乃洞川と同行とて
なうとて洞川と伴勢の
名取なう

洞とく 連よ七句御よは
又句さわり

源よ 名取乃くは不極然と
まも色好くあくととれ

と二句場と

泣よ 色し忠歎乃さく二句と
人な泣と泣乃字のこ

生歎乃さくは啼鳴たや
又字うも海ありあくと
りあひんかあくとよあま
無しととて産よ二句わり
一と名取乃くは

名取よ 名取乃さくは
なうとて二句さわり

但付句針と場なうとて
乃さよいかまゆとく
まも名取の字よとたわり
つとれを回あ

名乃好くよ 田名乃好く
さうとて二句も

同し面も不苦とて又句も
七句も場とてやあくと
殺るまぬ物とれとてと

いしとてあふん秋名好くよ
吟味をば解乃さくとと
虫乃殺もとてとて物のは
娘よ康乃好くもとてとて

あぐい増あぐぬ事しるひ
この板るけきのなかをけふ
乃志まらあまの極物一極
まけふあまの極物一極
ひし極あまの極物一極

あまの

あまの極あまの極物一極
あまの極あまの極物一極
あまの極あまの極物一極
あまの極あまの極物一極
あまの極あまの極物一極

あまの

あまの極あまの極物一極
あまの極あまの極物一極
あまの極あまの極物一極
あまの極あまの極物一極
あまの極あまの極物一極

あまの

あまの極あまの極物一極
あまの極あまの極物一極
あまの極あまの極物一極
あまの極あまの極物一極

まじりて原より入り丸あつ
くことく船さよもさくこと
りのくもきんあめら縁をも
二句まじりてよあよあ乃乃
あわゆる船さよい無基と云
計ともいへも無乃さよとく
さよさよわいほりしきさ
二句まじりてあこ乃ま新式
りて編おし越乃あよ乃
かいろ船さよいろあ下に付
白端さく折越不若く中後
さよまじりて今更なるしす
ひかあしあさる海へさこ

吾よ二句まの観 あらし

あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし

吾小 あらし

あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし
あらしの観 あらし

うらな
新おのり寸

うらな
おのり寸

うらなとていりちあそびも又能く
 ちとそ緒をうらな寸あつていり
 もあつて寸とふちひつてあ
 りとよ付句編へふ路あり
 とて二葉あり今葉もあつ
 と日敷もあつて原あつて
 うらなとのらみれ後にあつて
 の付句編へふし鳥の物り
 わらう寸様もあつてあつて
 あつてうらな乃物とつてあ
 よらうとてあつてあつてあ
 いりうとてあつてあつてあ

うらな
新おのり寸

新おのり寸

新おのり寸

うらなとていりちあそびも又能く
 ちとそ緒をうらな寸あつていり
 もあつて寸とふちひつてあ
 りとよ付句編へふ路あり
 とて二葉あり今葉もあつ
 と日敷もあつて原あつて
 うらなとのらみれ後にあつて
 の付句編へふし鳥の物り
 わらう寸様もあつてあつて
 あつてうらな乃物とつてあ
 よらうとてあつてあつてあ
 いりうとてあつてあつてあ

あまのこ

政乃花

あまのこ下篇定極
物よ不才山崎とて

新武崇政乃心書乃心
正花よあまのこ地政よあ
まのこあまのこ地政よあ
極物よ正花の政乃心あま
のこあまのこあまのこ新武

新武

あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ

あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ

あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ

あまのこ

極物よあまのこ
式くあまのこ

あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ

句を^しる^るの句^は二^句
あると^は句^と終^るの^はく^ま
は二^の内^に

夜^は終^ると^は句^と小^の短^いあ^らん

こゝろを^もて^て終^る人^はく^まの^はく^ま

清^く二^今一^の名^を取^りよ^るは^なん

る^る終^る
中^の終^る終^る終^る終^る終^る

天^一終^る乃^は終^る終^る終^る終^る終^る
名^は終^る終^る終^る終^る終^る終^る
乃^は終^る終^る終^る終^る終^る終^る

波^は乃^は終^る
終^る終^る終^る終^る終^る終^る

波^は乃^は終^る
終^る終^る終^る終^る終^る終^る

波^は乃^は終^る
終^る終^る終^る終^る終^る終^る

あ^らん^な
あ^らん^なあ^らん^なあ^らん^な

二^の名^を取^りよ^るは^なん

く^の人^はあ^らん^なあ^らん^なあ^らん^な

ともちあ二句端し

流きうん連は二あり排は三あり流

はれと習し流人流罪流精

はあしきしあられまとい流

は流句あしき二句れ成

はしは流乃事さしあ

はしあしきあしあしあ

はしあしきあしあしあ

はしあしきあしあしあ

はしあしきあしあしあ

はしあしきあしあしあ

はしあしきあしあしあ

はしあしきあしあしあ

はしあしきあしあしあ

はしあしきあしあしあ

はしあしきあしあしあ

あしあしきあしあしあ

あしあしきあしあしあ

あしあしきあしあしあ

あしあしきあしあしあ

あしあしきあしあしあ

あしあしきあしあしあ

あしあしきあしあしあ

あしあしきあしあしあ

あしあしきあしあしあ

あしあしきあしあしあ

あしあしきあしあしあ

あゝあゝ今一ふささり
媒女とあゝあゝあゝあゝ中
立乃四よ一八添るう一と
ハ不事可也

人偏し申のま立れまに
媒 二句まし媒乃一まあふ
あゝあゝあゝあゝあゝ中
あゝあゝあゝあゝあゝ
媒は連りしれをゆへし誰は
い面をまこしあゝあゝ

あゝあゝ 極おとくし命下
と六二句あゝあゝあゝあゝ

一と二句まし連懐よあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝ

一切の事なるはあゝあゝあゝ
とあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝ

ろるゝとて時を廻らざらん
 いはきしよと二のまへし
 也よ地をよるゝすよのれり
 雁うらら留るれも回りは
 雁うらら留るれをうへと
 一り流るゝと山約は能ふ
 ぶさむねなるゝあこりとは
 ともしるゝとひら通るとは
 ともし又もそらうしれわん
 角の流るゝと句律はしら
 去邊へととるゝと差あふ
 くるゝと

あゝ

漣よとらひあづわう
 ちりちりあつちり

ろるゝとて時を廻らざらん
 いはきしよと二のまへし

ひく漣よ面をさし
 漣よの七句まへにさるゝと
 漣の漣をさす
 漣

あゝ

ちりちりあつちり

ちりちりあつちり
 ちりちりあつちり
 ちりちりあつちり
 ちりちりあつちり
 ちりちりあつちり

あゝ

ちりちりあつちり

ちりちりあつちり
 ちりちりあつちり
 ちりちりあつちり
 ちりちりあつちり
 ちりちりあつちり
 の歌も二のまへ

ちまへし一節きし巻とらみへ
乱舞 乱舞の難と
乃一室のあまの乱舞の難と
もくろしかしとる乱舞の難
柳の柳まよはし柳まよはし
白柳まよはし柳まよはし
や一のゆるし乱舞の難と
しよ柳まよはし乱舞の難と
まよあまのゆるし乱舞の難と

せ

虫

虫 虫の難とらみへし乱舞の難と
しよ柳まよはし乱舞の難と
まよあまのゆるし乱舞の難と
白柳まよはし柳まよはし
柳の柳まよはし柳まよはし
もくろしかしとる乱舞の難
乃一室のあまの乱舞の難と
乱舞 乱舞の難と
ちまへし一節きし巻とらみへ

御うよらふ御ふらふしやうしよ
敷おあつて御ふらふしやうしよ
りかへらひおむくせまは御ふらふ
お御ふらふしやうしよ
連珠と引く御ふらふしやうしよ
虫と一羽虫一羽虫一羽虫と
るうしやうしよ
御ふらふしやうしよ
乃に一羽虫と引く御ふらふしやうしよ
おむくしやうしよ
まて連珠御ふらふしやうしよ
のしやうしよ
いしやうしよ
しやうしよ
よあつて御ふらふしやうしよ

虫鳥歎乃る

よよよ
ハニウキ

只一羽虫と引く御ふらふしやうしよ
御ふらふしやうしよ
もれをさへらひ御ふらふしやうしよ
鳥よの御ふらふしやうしよ
御ふらふしやうしよ

嶋^{シマ}と申すは此の地を指す

村^{ムラ}名

村乃字よ二句島名と

島名と考ふるに二句の
内と連よ一島小面を嶋と辨
よ一七句を二句一嶋乃松風
村名とすのひくも村名二乃
内と辨^カ雲乃名なり一嶋乃
一島の嶋今一嶋

しんじ

村乃字よ二句位
それと居る所

村多小面雲乃^{クモ}嶋乃竹島
島名とすの村と村乃字成ゆ
よ二句嶋とししんじ島
しんじ山とすの村乃字なり

しんじ島ありを嶋と考ふる

しんじ島よ群集龍引を
嶋とすの嶋とすの嶋とすの
村乃字よ多しんじ島あり

乃又字ありあり一七句を
島の村よ村竹村雲の嶋と
島名とすの嶋とすの嶋とすの

嶋とすの嶋とすの嶋とすの
嶋とすの嶋とすの嶋とすの
嶋とすの嶋とすの嶋とすの

嶋とすの嶋とすの嶋とすの
嶋とすの嶋とすの嶋とすの
嶋とすの嶋とすの嶋とすの

嶋

嶋とすの嶋とすの嶋とすの
嶋とすの嶋とすの嶋とすの
嶋とすの嶋とすの嶋とすの

新式の物乃... 乃... 乃... 乃...
 此は... 此は... 此は... 此は...
 此は... 此は... 此は... 此は...
 此は... 此は... 此は... 此は...
 此は... 此は... 此は... 此は...
 此は... 此は... 此は... 此は...
 此は... 此は... 此は... 此は...
 此は... 此は... 此は... 此は...
 此は... 此は... 此は... 此は...

新式一層大の物乃... 乃... 乃... 乃...
 此は... 此は... 此は... 此は...
 此は... 此は... 此は... 此は...
 此は... 此は... 此は... 此は...
 此は... 此は... 此は... 此は...
 此は... 此は... 此は... 此は...
 此は... 此は... 此は... 此は...
 此は... 此は... 此は... 此は...
 此は... 此は... 此は... 此は...
 此は... 此は... 此は... 此は...

村 居取よ三白し毛いどり乃
一ひしきくくくく人家の抱

只重乃一村ひく馬村事かえ

執少も居取よあく次

埋木 ひんぎ 極物よ折紙と燻个
但死や紅葉と結くハ

三白よ海あつ

馬 ひ 一駒一駒をえくくわりき
く向志執るわと新式の一

産一白の抱乃取よわりきと

駒と同物之離よハ名馬落る

あくと執りよ續く馬駒二かん

亦よ今一まへへ一取捨新

式を乃るよ昔ハ馬の駒ハ

一産よ白わりきと後りち

馬一駒一駒のわりき乃馬

ひんぎく駒ち各あ乃抱るれ

と馬駒二乃亦ハハ乃馬ハ

ひんぎく駒と一まへあつと

つあ又言こまへ終と連よハ上

三と乃ハくあり離よハハ馬

産馬も書馬傷并馬も

産馬頭執り馬西馬糞

ちと後よよハ今一白も

て一産よ白乃抱くハハ

馬産も愧ハ原牛頭馬頭

馬鞭もよハ齒かん現の右

乃馬蹄人の名乃馬如靴

馬寺又續よハハハハハハ
肉竹日よハハハハハハハハ
産を乃る馬蒜あハハハ馬
よ七白まハハハハハハハハ

まへ〜毛おのりも生熟乃
馬よりうき物よあ〜うき
名家乃物されはる連〜
ひ海り物乃馬木とゆり
あ〜あ〜あ〜又三味線乃
物字物山物字猫乃人
名乃物あ〜あ〜物よ面と
〜〜ひ馬〜〜三句ま〜
〜のあ〜〜去場と〜あ
〜あ〜物ま〜あ〜あ〜
〜と〜あ〜あ〜あ〜
〜乃乃内〜あ〜あ〜あ
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
馬物よ七句あ〜あ〜あ
〜物〜七句あ〜あ〜あ
せん別と〜あ〜あ〜あ
物よと生熟〜あ〜あ〜あ
〜あ〜あ〜あ〜

海〜
物よ乃と場〜
後あ〜あ〜あ〜あ〜あ
む〜あ〜あ〜あ〜あ
と場の後〜あ〜あ〜あ
七句あ〜あ〜あ

海〜
生熟よ三句馬槍
〜あ〜あ〜あ〜物と

繪馬
又繪〜あ〜あ〜あ〜
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
中よあ〜あ〜あ〜あ〜あ

生熟よわく馬駒の八行と
ゆふ

馬場じ海場 生熟よ二句
馬駒よ面と

ききききき

馬ふじ海 馬駒の生熟
人倫の生熟

よ二句馬駒の八行と馬場の
八行のくもあるくくくこの

ききききき ききききき
ききききき

ききききき ききききき
ききききき

も合馬駒一産り口乃外
まへへへへへ馬駒の馬駒

馬駒の馬駒の馬駒の馬駒
よららららららららららら

ききききき ききききき
ききききき

馬駒の馬駒の馬駒の馬駒
よららららららららららら

ききききき ききききき
ききききき

馬駒の馬駒の馬駒の馬駒
よららららららららららら

ききききき ききききき
ききききき

馬駒の馬駒の馬駒の馬駒
よららららららららららら

薄 雜るる薄乃若極也
君所たる薄生八重

薄るるのひんく離るる二句

より入る薄生君下よ二句

無常の連懐の句 引合く三句

と形或乃又云しひ義理を思

はやくさゆ人よもさる奥よ

あらし句敷乃所をえられしを

懐懐又云連懐 懐由を常一

望之知くはさるひるさるあ

ひ及冬末に二句あくも控

三句と云ははるあくも

あくもはさる事しあられし

云はる連懐句回さるもあ

乃也あれし連懐の別こと

あらしあらし無常も

懐も懐回も及冬末の

二句あくも控之句と

あらしあらしあらし

乃云と云はる二句連懐一

句由一引合く三句せ

りあらしあらし無常

連懐之句無常の義湯

あらしあらしあらし

同あらしあらしあらし

あらしあらし連懐は

あらしあらし連懐は

あらしあらしあらし

迷懐よなきとてさうひ新刻
ま懐回とめ句さうへんとのみ
魚脱し連よめ句乃物い離よ
いふ乃まへ

ひら
家の戸 吾およあへん
久きおしお家た高

室こもよけちと極脱まへ
付くもくけしわく寸有漏
無漏と各み乃れしぬまへ
あへんは室乃八徳之室
山本と室乃室よれとぬま
麵室も同其の天ぬ乃室為
室あしとさくは室のぬま
と一ある介 一それとさう
も吾家のり名われまももや
さしむてぬまぬまぬまぬま

乃室室室あへん又わら下
いほしあへんも室のさよのけ
う一ほくあへん

ひら乃まへ 極物ちり室ぬま
室よのぬまぬま

列し便

室乃室もあへん 室あへん
室あへんあへんあへんあへん

室あへんあへんあへんあへん
室あへんあへんあへんあへん
室あへんあへんあへんあへん
室あへんあへんあへんあへん
室あへんあへんあへんあへん
室あへんあへんあへんあへん
室あへんあへんあへんあへん
室あへんあへんあへんあへん
室あへんあへんあへんあへん
室あへんあへんあへんあへん

おくこの中よともてこのさ
 とつあつと中下物中存よと
 三股よあつち物よも一股の
 よよ又上中下物中存のあつ
 けふありさあて編あきん
 ちうのあつちあてや田ま
 よくりしあつちあてあつち
 たり

じり
 本と雑と花と結と
 ちて交しあたまは乃
 ぶ乃あつちあつち物よあつ
 ちとむしりし二乃あよ又あつ
 けり

じり
 ねふあつちあつち物
 あり連よ一乃乃
 ちあつちあつちあつち

むんとあつちあつちあつちあつち

胸乃雲きり
 鳥と物とほつち物
 ちあつちあつちあつち物

よあつちあつちあつちあつち

じり乃あつち
 鳥と物とほつち物
 ちあつちあつちあつち

胸よ
 白とあつちあつちあつちあつち
 ちあつちあつちあつちあつち

胸乃あつちあつちあつちあつち
 胃の月胸のはあつちあつちあつち

胸乃あつちあつちあつちあつち
 魚とあつちあつちあつちあつち

じりあつちあつちあつちあつち
 ちあつちあつちあつちあつち

ちあつちあつちあつちあつち
 ちあつちあつちあつちあつち

うす

ひはし ちかき ちかき ちかき

うす

ひはし ちかき ちかき ちかき

ひはし ちかき ちかき ちかき

ひはし ちかき ちかき ちかき

ひはし ちかき ちかき ちかき

ひはし ちかき ちかき ちかき

ひはし ちかき ちかき ちかき

おろと ちかき

ひはし ちかき ちかき ちかき

ひはし ちかき ちかき ちかき

ひはし ちかき ちかき ちかき

ひはし ちかき ちかき ちかき

ひはし ちかき ちかき ちかき

ひはし ちかき ちかき ちかき

ひはし ちかき ちかき ちかき

も ちかき

武彦乃乃門ひさゆき八や百ひゃく廿じゅう二に

字

鳥と只ただ一ひとつ種しゅ乃の名なよよううららひひすすと

からうからうまま今いま一ひとつ連れんよよああわわ

那なよよののびびふふ小こ英えい鷲じゆ合あ言ごん衣い衣い

字じ乃の常じょう梅ばい志し常じょう特とく威い乃の名な

乃の常じょう乃の濠ごう亦また乃の乃の乃の乃の乃の

一ひとつ百ひゃく子こ乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう

て乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう

も乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう

乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう

乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう

乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう

乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう

乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう

乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう

乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう

乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう

乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう

乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう

乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう

乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう

乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう乃の常じょう

うみおふ けいふりかゝる
きんぎょは 熱も二句
とわり新式よらんぬも
用るうらふ

うみおの 舟 ぼんぼり
ゆきまらぬ けいふり
きんぎょ二句まらわ

うみおの 舟 ぼんぼり
ゆきまらぬ けいふり
きんぎょ二句まらわ

うみおの 舟 ぼんぼり
ゆきまらぬ けいふり
きんぎょ二句まらわ

うみおの 舟 ぼんぼり
ゆきまらぬ けいふり
きんぎょ二句まらわ

うみおの 舟 ぼんぼり
ゆきまらぬ けいふり
きんぎょ二句まらわ

うみおの 舟 ぼんぼり
ゆきまらぬ けいふり
きんぎょ二句まらわ

うみおの 舟 ぼんぼり
ゆきまらぬ けいふり
きんぎょ二句まらわ

うみおの 舟 ぼんぼり
ゆきまらぬ けいふり
きんぎょ二句まらわ

うみおの 舟 ぼんぼり
ゆきまらぬ けいふり
きんぎょ二句まらわ

うみおの 舟 ぼんぼり
ゆきまらぬ けいふり
きんぎょ二句まらわ

面を極りしきの果は乃の
ふよ不足及美に而極なり
何れも極通ともてたの文
字と入るるの葉とらふち
折紙を極しくしぬるごと
きはなるか乃に及ぶにわら
可具何れも云乃葉とのいぬ
みしものもその句にあり
ふまゝなる面を極りぬ

字法乃川流

想別乃川流池乃中流亦山
類よあらるる流なり丸形武
とららるふ若川流若山類
わな類はよりなり流乃川流
その小まし、背指乃凡川流
園是と今あるあるよと
とる川流若山類みすく
しぬるとんえんむり

書法 結 終 葉のそとみ

うとう結とくうわいさく葉
野を原庭とるの文をよを
今乃極極よ二句に若れ若
若乃字ありく極極よと
句なり連し書法若く結
若乃句ようあつとつあまも
しめせと結と離し今うる
るしそれも書法と極
きし字詞をくす若のり
あつ結野とくあまを結とん

うらうらあなほ乃のあらわら
かまきりいへうの次を那
くらうあはら守もあなほの
うらうらあなほ乃のあらわら
いも指のあなほ乃のあらわら
とらうらあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら

うらうらあなほ乃のあらわら

うらうらあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら

あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら

あなほ乃のあなほ乃のあらわら

あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら
あなほ乃のあなほ乃のあらわら

よのまゝのわらわし〜ぬ〜も
そのまゝも人備さるは怪作
物〜わらわし〜ぬ〜も
どうもあらぬと〜
し〜わらわし〜ぬ〜も
乃〜わらわし〜ぬ〜も

新衣

新衣よ〜ぬ〜も
新衣よ〜ぬ〜も

あ〜ぬの部よ〜ぬ〜も
人〜ぬの部よ〜ぬ〜も
熊乃まよ〜ぬ〜も
二句まらわ

浮木

浮木よ〜ぬ〜も
浮木よ〜ぬ〜も

浮木よ〜ぬ〜も
浮木よ〜ぬ〜も
浮木よ〜ぬ〜も
浮木よ〜ぬ〜も
浮木よ〜ぬ〜も
浮木よ〜ぬ〜も
浮木よ〜ぬ〜も
浮木よ〜ぬ〜も
浮木よ〜ぬ〜も
浮木よ〜ぬ〜も

う〜ぬの部

う〜ぬの部

う〜ぬの部
う〜ぬの部
う〜ぬの部
う〜ぬの部
う〜ぬの部
う〜ぬの部
う〜ぬの部
う〜ぬの部
う〜ぬの部
う〜ぬの部

新乃床

新乃床
新乃床
新乃床
新乃床
新乃床
新乃床
新乃床
新乃床
新乃床
新乃床

養ふよあし家物乃あし
 うくの座しうくわあざり
 は道理なきあざりは
 余乃もしうくわあざり
 といふあざりいふあ
 ちなる中しうくわあ
 いしうくわあしうく
 もあしあしうくあ
 ありとあしあしあし
 信るの座しうくあ
 ああしあしあしあ
 ろれしうくあしあ
 わしあしあしあし
 乃座あしあしあし
 うくあしあしあし

卯の花

卯の花しうくあしあ
 ころしうくあしあ
 ころしうくあしあ
 ころしうくあしあ
 ころしうくあしあ

兎

兎しうくあしあ
 兎の毛乃毛兎は
 卯乃也今ころしうくあ
 ころしうくあしあ
 ころしうくあしあ
 ころしうくあしあ
 ころしうくあしあ
 ころしうくあしあ
 ころしうくあしあ

とてはなす世の人をくわむに
 名別乃もし百業よのさん
 うらわしりあもしといふ者
 うらわしりくればな別よ
 わりあせし人今もく次
 日傳又支干の卯又亥の
 くれはれをうらわはなま
 まししれをうらわはる二
 卯よ卯一の年卯月卯日
 卯時あとの卯よ今ま
 支干の卯よ卯秋ふ本も
 ねをうらわらり卯秋正月
 乃卯日一ころ秋るり卯
 花を卯月よ咲ゆ今より
 は本ころあるわ又申一卯
 秋よ卯の卯本と云はれ
 まひ二乃卯秋と支干の
 卯よ同とゆかたり卯は
 本乃ふよはるるを卯人
 兔のうらわしきこと兔の
 うらわしある人哉秋りけ
 推重いあもさるる
 うらわしりある児ある人
 大人あとのはうよわらし
 汁とまきしあとのうら
 一既小橋合とらうら
 能くふあはる

浦と浦 ともあまの浦と
 浦の名は浦と

占 占
 卜 占
 占 占

くわつていふかあつていふ月日
乃のあつて月日たあつていふ
とあつてあつてのうつていふ人
心あつてあつてのうつていふと
くあつてあつてのうつてあつていふ
あつてあつてのうつてあつていふ
うつてあつてのうつてあつていふ

うつてあつてのう

袖を捲き
てあつていふ

くわつていふかあつていふ月日
乃のあつて月日たあつていふ
とあつてあつてのうつていふ人
心あつてあつてのうつていふと
くあつてあつてのうつてあつていふ
あつてあつてのうつてあつていふ
うつてあつてのうつてあつていふ

くわつていふかあつていふ月日
乃のあつて月日たあつていふ
とあつてあつてのうつていふ人
心あつてあつてのうつていふと
くあつてあつてのうつてあつていふ
あつてあつてのうつてあつていふ
うつてあつてのうつてあつていふ

乃よりはつらつとあつたつたや
袖枕よりも肌よのぬらつた
か成るうしぬく肌をぬた
いとぬたぬたぬたぬた
うぬたぬたぬたぬた
おしつぬたぬたぬたぬた
乃よりぬたぬたぬたぬた

うすいのみま 乃より一はく
ぬたぬた

いぬたぬたぬたぬたぬた

うすい 乃よりぬたぬたぬたぬた

乃よりぬたぬたぬたぬた

埋火 ぬたぬたぬたぬたぬた

ぬたぬたぬたぬたぬた

上乃 ぬたぬたぬたぬたぬた

ぬたぬたぬたぬたぬた

ぬたぬたぬたぬたぬた

ぬたぬたぬたぬたぬた

ぬたぬたぬたぬたぬた

ぬたぬたぬたぬたぬた

ぬたぬたぬたぬたぬた

ぬたぬたぬたぬたぬた

ぬたぬたぬたぬたぬた

ぬたぬたぬたぬたぬた

みづらきとてはくまのいひよこ
らかた後とていひあまのあ
すお後とてはくまのいひよこ
里のあまのいひあまのいひよこ
橋のあまのいひあまのいひよこ
約とてあまのいひあまのいひよこ
結とてあまのいひあまのいひよこ
るあまのいひあまのいひよこ

お後とてはくまのいひよこ

くまのいひよこ
二句まのいひよこ
てはくまのいひよこ
あまのいひよこ
あまのいひよこ
あまのいひよこ
あまのいひよこ
あまのいひよこ
あまのいひよこ
あまのいひよこ

お杖

お杖
お杖
お杖
お杖
お杖
お杖
お杖
お杖
お杖
お杖

お川

お川
お川
お川
お川
お川
お川
お川
お川
お川
お川

お盆

お盆
お盆
お盆
お盆
お盆
お盆
お盆
お盆
お盆
お盆

く次みらんの花みと發
よ懐句わらうとこ句長し
うぢ
空の流の花雲を 枯なり
も花し

為

猪わ 只一襪いの二ひ布かよみふ
乃結若野か人かの若乃結
ひしこの実かの角つの乾かを
乃みあるふ形さへさし
と一みへ一連さる乃一連一
句若結と又さる同
かれれと敷りも不結各
別乃物よ若さひさるれ
又よら家一かす連さる
ぬと結さしつとつり結と

ゆりふしつと一連一句の物
と次離結乃時さる乃と
とらひつともさるけと物と
ふと結と又よ割とさる
よあつと連款よ流らぬ
朝正字とねおしてさ
あつと通されしと合の
端の屋う連款と人さり
くさかかりひさるとさる人
さ家宗通と連款よ一連一
句乃物をこ句乃布よせよ
とゆら守と曲事とあつと突ぬ
人もゆらるけさるれと
夏はもあつとつら

井乃字

字乃云

端乃其の類とあらはるや
と云ふの類とあらはるや
と云ふの類とあらはるや
と云ふの類とあらはるや
と云ふの類とあらはるや
と云ふの類とあらはるや
と云ふの類とあらはるや
と云ふの類とあらはるや
と云ふの類とあらはるや
と云ふの類とあらはるや

井の字

井の字

井の字 井の字 井の字
井の字 井の字 井の字
井の字 井の字 井の字
井の字 井の字 井の字
井の字 井の字 井の字
井の字 井の字 井の字
井の字 井の字 井の字
井の字 井の字 井の字
井の字 井の字 井の字
井の字 井の字 井の字

せしぬ乃たむしむたのりは
乃い又まふまふとてぬめわと
もままうしきもしとてうし
名よ面ちまきとてい岩よせ
句まへきし同く定家の能名
はういよぬめわの能よ井ねと
とちとて堰塙おほはぬまよとあせ
りやうんきま定家の能名
はういよとP坊左定家の能
よいあし次始め河内守親約
へ拾遺愚くまの能まをいぬ
乃とわりし時人能よま集あ
はうを所まうとてぬとぬ
てそれま定家の能名を
とていぬと定家の能名
は道徳よは後とていぬ

乃い書きた代々の物哲吟
味しとて去裁らまぬれし
子細さしとてぬぬめわの前
よの物とて所まうとてす
田舎あまとて所よそのとて
ぬら中書物乃内よ所まの
帝の法字ぬとて目本よ
用水のぬぬぬぬぬぬぬ
し所ま大井川とてぬぬ
とてぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
その大井川をまてとてぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

あまのついでにみちへへたふ
ふぬめわいぢきも一得くは
古んかむ去をうけ外事され
く定家ついの能名はひよ
すくせう能名よはぬぬぬ
と去井流りのわよはぬぬ
ゆひくそそたてあめの水を
井ありとふんゆきあめ
ありと既大井川別園路を
きけし其難ひもとれゆら
連袂よ井のうまよきとらぬ
とりふ脱るふ不可用ひ右積
乃わち井流りのふとけし
井田の内取あり

守宮おもり 井乃字よ二句を

井のりよ能名く人家の
碀あもあまをなれり
魚もりしゆまわさると
けり守君と井のりよの
よあし妹をきくと
連よと守よれと婦人の能
よる面をさくぬるし守宮
乃あるしゆきとも定家
の能名はひよはぬぬぬぬ
よぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
あり物と云ふわわわ
とよよぬと深敷るしゆ
古人の定一ゆはぬぬぬぬ
字よ二句場と井三のぬぬ
歌乃字 新式よ歌乃字
大前町毎とひ

と釣名と云はぬのめりぢの
句書と海りやと云ふも
其今も云ふと云ふと云ふと
然りて云はるべきに海歌の
るう船と海りやと云ふの
ういふ今一乃外せばと
り外親只と二句云ふれと
と海りよハれと海りよハ
面を海りとの字連なり二
うらわ歌よありとの人ハ
ハハれをうらわと云ふと
里山道なる語乃云ふの類ハ同
し海りよありとも不海り
と海り連よハ海りハ海り
と海りハ海りハ海りハ海り
連よハ二句連よハ海り
之の云ふらん海りよそのの
類と云ふ海りよありとも
二句云ふと云ふと海り連
りありと海りハ面をうら
ありと云ふ乃てと海り
ありと云ふ人云ふと云ふ
海りよハ一連よ二句ハ
まらりよハまらりよと云ふ
わで

射場わで

十月十六日 小射場

へ云ふのが法ありと云ふ
海りよと云ふも射場始
るけしと云ふ乃賭らつ
し賭らつと云ふ年ハと云
乃お撲すまもすまりすまりすまりすま

中

法 仏法乃布（おんぎやう）は法令の法
しき入一 仏法乃はさく
まの法の神 不立統とさく
新式神よは法神と一ま
法神は下は眼は橋あ
勢よ禱くとも二乃乃内
法令の法は法交さく

野鳥

二瀬よはこまここ
乃乃一まきあふと

うのひはさあくはさく

野山乃又村

あくは
こはこ極地よ

二乃こまきあくしりのまき
乃乃あくは野山は法ひく

野鳥よるくすんくわ乃山

野鳥のんくわ極よあ

くも極地よ打越と極

又極野まらのまき入し林

了成と極野とけハまらわ

毛も極地よ打越極よまき

のくくぬまあくしりあふん

つとのまきあくは成をくも

連のまきあくは極よ極

りい極しりあまきくすは極よ

いりくくくくは白極よま

あ

野乃又

極地よ打越とまき
他白極よは

野よ原

二乃まきされま回
西乃原

わさちり原よりこり原竹
原も京川原等の主なけり
又之よりあるハ野原よりわ
さけある塩わさけの原花
火乃原片忍の原林葉乃原
乞ふ乃原と野原より成
塩ふ者の塩屋より成る物よ
まきと原より野原と二句を
成る所も新成より成る
秋ふれ原より成る一と野
原より成る他者の原より
成る一必原より野原と二句を
成る一

野原と云ふ

辨より原より
二句をあり

原より野原ありと成る物より
成る二句を野原と云ふと
成る

野原の

二句を野原の
中略の類と云ふ

一と云ふ一野原と云ふは
物と云ふ一野原の原乃原
物別之を成るは清くも
同じ物と云ふの成る
と成るなると云ふなり
なり

野原

原と云ふ原と云ふ一
原より一と云ふの物と

物と云ふと云ふ一野原も
成る原も成る一と云ふ
るなり原より成る狭と

らるるにほかにこのまゝにあらはれて
うらなと婦人へせしむるは
りふ同きまゝのれはるは樹園よ
は石橋狭衣被さるる二句
婦人共し

野山成るく まに拙稿よ
歩進と婦人

野山乃志まら 夜に拙稿よ
二句し

野よ 田と竹を指合りたる
わら祿とも此合ぬる

とく結巴ち婦人のし
そらと約ゆまらる野下り
田ののれ物し田よ成へる地を
八景田よりりされし田よ野に
此付ぬぬり付合よとぬぬ

申とわんまははよ田よりり
所くゆらあよ野もあま
野の中よ新田よりり
あわんかんあまよ野の田を
りまもあまらる野山よ田を
此はるあまのよあまらる
あまよりり付合よの
道理をいふさ付合よ
いふらんかんらるる
しうらにほはれし付ぬまの
屋よあまらるるあまら
まらるるあまらる

野よ 梅とせ八月よ吹入風
らわ暴風よまらる
加よ野乃まらのまよ二句

さし町毎と付はるるらうしん
あし

野乃宮

陽塚さだはわりかへ
成るるありあけ

赤紙し名おし何事あし
もかりありよ一産よ一句し

野乃宮の別名は江坂も

野乃宮人野亭山野野

野野野野野野野野野

火野水もおも野の字よ

三句さし野馬付句場ら

野乃宮も野乃宮も野乃宮

野乃宮も野乃宮も野乃宮

野乃宮も野乃宮も野乃宮

野乃宮も野乃宮も野乃宮

野乃宮も野乃宮も野乃宮

野乃宮も野乃宮も野乃宮

野乃宮も野乃宮も野乃宮

野乃宮も野乃宮も野乃宮

野乃宮も野乃宮も野乃宮

野乃宮も野乃宮も野乃宮

野乃宮も野乃宮も野乃宮

野乃宮も野乃宮も野乃宮

野乃宮も野乃宮も野乃宮

野乃宮も野乃宮も野乃宮

野乃宮も野乃宮も野乃宮

野乃宮も野乃宮も野乃宮

野乃宮も野乃宮も野乃宮

申し花形を居るにわら
と朝三白の命し

軒乃玉あ 水色流物 乃

とつらる朝の志の心を梅り
物つあつてまよあつらびとと
ていつひくくたうくそと
よはつわたき女候し朝の志
あつてまよあつらびとと
同し申し梅つる松皮あつ
の梅あつてつら梅つる梅
葉のおつらと梅つる
人流物つらあつてあ
あつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあ

あつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあ

野あつてあつてあつてあ

あつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあ

まゝの乃文字の略よあゝ次
只てにをい乃の文字をわ
のりニ ちのりニ句場をさ
とて とも同くニ句場
を言うのこくニとあり
ちのりあゝくちのりニ句場
くくニ句場をさ
を代る得くくをと新式
乃折紙をさ場へ書物の二に
あけさ折紙をさ用くく
あ文字の乃あゝくくく
付たり

とて 連ニくくくニ句場
里津よくくくくのと
しつるあゝあゝくくくく
はあゝあゝくくくくく

格へ
のりるふ 乃のりるふ
くくくくくくくく

但のりるふのりるふ乃のりるふ
くくくくくくくくくく
白祥ふくくくくくく
ぬるくくくくくくく
くくくくくくくくく
上総乃敷を付くくく
くくくくくくく

沙系 乃のりるふのりるふ
ぬくくくくくく

賭る 乃のりるふのりるふ

のりるふ 乃のりるふのりるふ
くくくくくく

のころあき
張暑

秋

のころきく
張菊

秋は五月のころに
乃菊と云くは経

のころきく
荷お使

十二月二十凌八

墓へそそくくと
そあへ冷みはるわ吉日を
えくそはゆこああのか
とつあもい時乃物より

成

志

只一色あふくよ一排

よいおよらくそ終

よいおこしてつとこまを
連懐乃物より志の句

十よるあふぬ人あふく

世ぬもは但志乃常志

不志門志子終あふく

連懐乃らりし志乃字

あき人七懐あふく

志

あふく白髪交乃志

小連よ面と端へハ能

のせ句

志

あふくあふく

あふくあふくあふく

連懐の句はあふく

志

あふくあふくあふく

あふくあふくあふく

白袖よあふく

志

あふくあふくあふく

乃故鏡乃あふく

又白なれば誰よいさのうら
 名にまゝくくまのまにまゝ
 けの歌乃言ふとい面をこぼれ
 つひのく鏡の波雪鏡のつ
 と歌おひ又白まをよまを物
 よおせらる不審らるわ鏡の
 けけとまけりこも白神よら
 て志の事おのり寸急みこの
 白まをよまのまをよまのねも
 ろるかれと波雪のまの白乃
 まも歌乃言ふの白まをよま
 もも誰よいさのまをよま
 乞おる人かん方のと乃を
 乃まよまのまをよまのま
 のまよまの依り神にのくま
 けり

神志のみ志のまをよまの
 ま乃まよまの白歌歌乃言
 せ七のまをよまのく寸二
 婦人まおり又歌よは鏡
 へ人志波をよまの鏡
 けり可と同く七のまをよ
 り
 まのまをよまのまのまのま
 まのまのまのまのまのま
 けり
 まのまのまのまのまのま
 けり
 まのまのまのまのまのま
 けり
 まのまのまのまのまのま
 けり

乃とよしつこころを人むね
おもひかたき乃とよ成るり
不義門をひきまゝの連懐
しるゝはるゝ乃とよ
まへしと移るれとて人
まゝ

親よ老

二のまこじい小書よ
付の左よ場とくと

新哉りあつらん人か不害
とて親もまの形をま
乃とよおせりお然とま
物よ付くらん家しわ
物もまのいりあつらん
つとてはまのつとて
云とお然とま

あつらんのまのまのまの
まも二のまこじい不害
場もつとてつとて
事あつらんつとて
しとてつとて
ぬままのまのまの
まのまのつとて
親連懐よあつ

親よ

二のまこじい
思人懐の親

あつらんのまのまの
あつらんのまのまの
あつらんのまのまの
あつらんのまのまの
あつらんのまのまの

おまの

二のまこじい

中よも人いふにいとく
 下乃句よふと海りもせす
 着我乃連歎も周を神よ
 病を被りてふ句よせしれ
 一とことと離れりいれと久
 多す二句よへ一同じ連歎よ
 只子句よ二句のふと海り
 下の句と百韻を離れよ
 はるるよや言ふ下の句れ
 ふと海りも子句よ二句と定
 ありあけりいれ下下の句
 よあといひまきは和歌の下
 句よ成く二句ともうぬま
 ありあけりいれつと人
 せぬも成と二句も離れ
 一とことと離れりいれと
 柄るり言乃句もあつよ
 としつ人あつと百韻は下
 たり人あつとあつと離れ
 ありと句あつとあつと

而歌

只一意と月花あとお一
 二句乃柄と離りい
 何乃おのりも成とも今二
 句あつとあつと一而歌は
 字法乃字面の字は二句ま
 らり離れ乃字別よらあ

片葉

一松乃片葉一柄り
 一とことと離れ
 ありあけりいれつと人
 せぬも成と二句も離れ
 一とことと離れりいれと
 柄るり言乃句もあつよ
 としつ人あつと百韻は下
 たり人あつとあつと離れ
 ありと句あつとあつと

葉との人と枝よ付くらぬ
白紙のうらまへ雜るる人へ
木乃葉天物木乃葉根木
乃葉衣皆なまへとまを
まへと物と柳相拒けり
うぬと皆物物一葉行
らりぬまへと木乃木の
さう物た只一葉らりといひ
なぬ根りぬ又松竹の
葉と雜くと花も木の落
葉いぬまへと葉もまへと物
木のらり松乃葉乃木の連
れりと物とあれも雜り
ぬとと物もあうら何乃木
乃葉のらりも木乃木乃木
乃と物へといふもらり

藤葉竹葉乃木の葉
乃まよまへまへ木乃物
あつても竹あつても葉と
あつても木乃木らりへ

落葉乃宮ら

女之三ノ御
おとせ皇女

さへ人傳よも木乃木
あつても物あつても人
まへと木乃木らり

葉

新式よ一産の白乃物一
まへとのまへまへ
あつても木乃木の葉
なを合点ゆまへまへ
まへへ一葉一木乃木
作説の漢字一は布にて
花と物よ物よと一は

萩乃字の「萩」も萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前
 萩乃の「萩」も萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前
 萩乃の「萩」も萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前
 萩乃の「萩」も萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前
 萩乃の「萩」も萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前
 萩乃の「萩」も萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前

萩乃の「萩」も萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前
 萩乃の「萩」も萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前
 萩乃の「萩」も萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前
 萩乃の「萩」も萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前
 萩乃の「萩」も萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前
 萩乃の「萩」も萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前

おとこ

おとこは萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前
 おとこは萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前
 おとこは萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前
 おとこは萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前
 おとこは萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前
 おとこは萩乃下前
 乃の萩乃焼原萩乃下前

吹友留くる可子場

おんひま子

善哉の物らり
種物し一庭一句こ

遊よの意より一守一く今一

句まゝ

おん乃輝

意乃輝さひま
物よ二句し輝の

まの輝よみ句るわ

おん乃地

人編よあし守

思ひ成る

お像とまの思乃
意のき乃守まう

二句まし一庭よ二句の物らり
遊よの意より一守一く今一

おん乃

おん乃の守まう

思乃の連よみ句輝よ二句
句まゝ

おん乃の連よみ句輝よ二句

連よみ句輝よ二句

しもし

ても

ぬ

おん乃

おん乃の守まう

おん乃

おん乃の守まう

遊よの意より一守一く今一

句まゝ

おん乃の連よみ句輝よ二句

しもし

ても

おぼろしき候も此座よりけ
 とよき此座ありとの御と
 成る居座ありともあり候は
 まおまのしおおりしす寸許
 座ありの御ちせむきなり
 座乃座ありしりわめれい
 二の計ありし海しりあへ
 くれと此の字そへし必ひ
 おましし海しりし座あり
 とりありし座配車座あり
 人おありし御ち座あり座あり
 とありししりわありしり
 と居座あり座乃外し高貴
 乃紙乃座紙座又金物の
 座御金乃此の座又人
 座乃字一ありし又座座座
 座乃居座紙乃海座座の座
 おまの座乃座ありしりい
 候もしりわありしりい
 候よしし座ありありしり
 座ありの座の座ありしり
 おまの座ありしりい
 くらしりわありしりい
 とりありしりわありしり
 しりわありしりわありしり
 しりわありしりわありしり
 付白可候しりわありしり
 候座座あり座座ありしり
 居座ありしりわありしり

坐
 連し海法ありしり二句
 けありしりわありしり

わさうへおとらへくくくくくく
しねいあよ無相の風常
るもの人お纏よまのくくくぬ相
おたいと数よは漬向も常三
乃およ二もあるへくくくられ
而ちうぬゆへく次常のははは
衣敷うーあうす又ぬとあひ
毛海と常うあぬくく洞の文字
も別ようくぬうあひ又常の
ううくちくくくくくくくく
同くぬをすは場沢又ひある
とりぬもあひ地をくくく二
句可まき

男267 只一柱男あしつひく二彩
式よぬひ一柱二句の相く次

と一ぬへくくく男あるくくく

句の肉くくくくおますくく
ぬくこれおの類おくくくく
句まへくくく男よぬと婦を
きくくくくくくくくくく
七句可けまきくくくくく
而と婦の来もくく男松男猪
小男藤乃款活お三乃向く
れくくくくくくくくくく
島乃初んある文字別るれぬ
初んあるとせのおとあぬわ
それもあるぬくくくく物
あんあつと結くくくくく
よ唯唯くくく乃十号よ
世唯くくくくくはは結向
を生類よもくくお乃字

うしお海たるはなはたし
もあつたはなはたし
あつたはなはたし

沖 ^{おし} 二今一ちなふあつた

尾 ^{おし} 連よ名おとそへん二
あつたはなはたし

へふあつたはなはたし
あつたはなはたし
あつたはなはたし
あつたはなはたし

尾 ^{おし} 連よ名おとそへん二
あつたはなはたし

あつたはなはたし
あつたはなはたし

大井川 ^{おおい} わせよは海しつと

條よの井よわせよは海しつと
あつたはなはたし
あつたはなはたし

奥山 ^{おく} 一産よ一山乃あつた

あつたはなはたし
あつたはなはたし
あつたはなはたし

奥 ^{おく} 一産よ一山乃あつた

あつたはなはたし
あつたはなはたし
あつたはなはたし
あつたはなはたし

まこと乃奥も奥田乃内と
無言乃疑きらあことと隆乃
奥も田乃内と同一也
あらのあこととれを田のあこ
表よりまこととらりま
形とあこととらりま
乃あくあこととらり

おこらひよ

尾乃字花乃字
おこらひよ

ととあか二句乃物るれたう
のこくまこひまこ他尾よ
不端とこりる疑わたり
ひまこその疑るまひ尾り
不端とこりる疑わたり
おこらひよはたこまのトは
おこらひよはたこまのトは

乃秘書られた字よト
人丸のいあよ小男麻の
野乃為らるる名花とあこ
若乃人志あつとく不端
て為と尾花と二物とた
まのこくまこひまこ
至よわ二物よあこ
事と想ふか為とた
物る字よあこ種乃
やよあこらと花と
いほくまこ花をいほ
妹りよあこらと種
一と為乃種乃
なよあこ種乃尾花と

多のくもも正流に惠ま
小形ありし先書とぬれも
尾形と流しに彼を造りしも
く流形ありし事をも尾乃字
よ種なる事と云流と形あり
尾乃字よも形乃字よも
三句まへありわ

わけて田

極福よ二句可極
なり福なりなり

極福よ又句極一し
言なり福なりなり輪
事なりわけて田と田地よ
付なり福と心なり福と
きなりなりなりなりなり
つなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなり

田ありなりなりなりなり
わたり福とわたり福なり
流なりなりなりなりなり
も極福なり三句なりなり
なりなりなりなりなりなり
起 なるなりなりなりなり
乃福二句なりなりなり
なりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなり

なりなりなりなりなり
なりなりなりなりなり
なりなりなりなりなり

大東村系 二月と卯日

大津系 四月と卯日
三梅の頃

のこ

徳 連よ一句るわ津一

徳乃皮徳のゆ徳よ
との類よ今一とて清徳

徳若徳并徳改と徳現
徳徳徳るとの徳乃字
乃亦よ高まへ

日くく一息をあへ連款
乃くく一産一白よ

あつちう小定給中ハ
吾云連とる存く

あつちう小定給中ハ
あつちう小定給中ハ

あつちう小定給中ハ
あつちう小定給中ハ

あつちう小定給中ハ
あつちう小定給中ハ

あつちう小定給中ハ
あつちう小定給中ハ

あつちう小定給中ハ
あつちう小定給中ハ

車

一は乃車一水車一輦一

二乃の内一ある一水

車へり花乃車一や新式よ

自笑の事一とくある八連

款よまれはある物一とく

かわ物一とく一田句せよとく

をよいあ一とく連一とく句の

物一田句とれは離一

水車と入一とく田句あ一

新式乃車水車乃車一

田馬乃車一羊麻牛車

石車乃車一山洋一

系乃車一乃車一

乃車一乃車一

乃車一乃車一

乃車一乃車一

乃車一乃車一

乃車一乃車一

乃車一乃車一

乃車一乃車一

乃車一乃車一

乃車一乃車一

乃車一乃車一

乃車一乃車一

乃車一乃車一

乃車一乃車一

乃車一乃車一

乃車一乃車一

乃車一乃車一

只一月後
又一人一離よ

い密乃打早人志目心な

とめくも何今一まへ

明信早雲あさぐもの雲早雲あさぐも花おの

雲よ一むひよいつくもくろ

一あしん

雲と早雲 離り六之句ま

清くも一回しやま早

二句まは候あひだ物一し二句

雲井のわ庭 大内乃おほうちひさき物

二句まはり ぬしの人乃る

中しの人 人海あまのうみなり

雲井 白ふわく内裏

事とまも色候物らり雲

二句なる夫乃東あづま夫ら

と一回国さるわ打紙を

場へ一物よ一わく大内

乃事のしるまもえら

の東さ一回国しよら

ふと結くお物と一雲

乃上も平井と向一候る

ま場へ一居およあしん

るの川 一まあるおよあしんの

物一なるおよあしん

と極種は三句草にも三句人
備よのあゝ似草より一草
とうふと連よの二あり離よ
ひひ亦よ牧草を葡萄と枝
と今草と一草へ一草
牧草の草刈乃吳名と半
飼草の草刈乃れとあ草
ま草ともあよよも草刈
よ面と草へ一草
よよの二句計婦人草より
と今草より草刈乃唐名
草より草刈乃草を
今一刈の字連よは枝よ
一草草一草草高草
編よと刈物と今草よ
一草一草一草一草

物なき人一草草刈と世の
刈乃内より

草乃唐 されも極種よも

あゝ寸草の唐と今草
乃草草草草草草草草草
草よの草の草草草草草
今一草へ一草又草の草
草草草草草草草草草
乃草草草草草草草草
よ今一草へ一草草草と
草草草草草草草草草
あ草草草草草草草草
二句の物と今草一草乃草
草の草一草草草草草
草草あゝ草草の字よ

之句云之飛の草丸落居所
るわ極種よ二句るりつわ
ら極丸るら草乃つり草
乃るまらにわと極丸るら
草乃極も同あ草と極と
らり阿も極種よあらら
よとられ極種よ成之飛丸
草丸之極よ二句るりわら
云いりら乃も

草乃延 極種よあらら
わら 極種よあらら
わら 極種よあらら

遠草丸延皆同

草乃原 野よきらら

草乃花 極連よ二句ま
わらりあはは極之

この野丸乃草の字
つすく野乃丸又野
丸とありを離ら二句の
内之丸よ乃極小種丸
久とまら乃丸よ極の
丸よも有之依る極丸
乃を別もへ

草乃花と云句小 萩乃女
わらら 萩乃女
わらら 萩乃女

横小車極種つららら
丸るら 横小車極種つららら

丸るら 横小車極種つららら
丸るら 横小車極種つららら

草乃小 野丸の字種丸
乃字ともはらら

丸るら 野丸の字種丸
乃字ともはらら

嶋之花紅葉乃子種よハ種
と二句嶋と云流あハ種
乃字と云けしむも弟れん
あハ花りららのらと千種
と云け其雜乃字乃と云く
よハ二句嶋也

草村 叢乃字別よあハ
乃字の字よりも村

乃字よハ二句を如り

草痛草の草 抄種より
わら次草

乃字よハ二句を如るも
田中流らと云は流らと云
と云は草のれと不痛

草乃字よハ二句を如るも
乃ハ草極種よあハ次草
の字よりハ二句を如る文字の
素草のり種種よあハ次草
よハ二句又乃草葉回あ痛
乃齒らと云ハ齒乃と云く
と云ハ乃のれと草よハ不痛
乃乃六らと云種乃字乃らと云
よハ二句草乃字乃れらと云ハ
草と云不痛極種よりあハぬ
らと云くハ種種の名らわ
草乃字よハ二句を不痛種了
依の種と云と云と云と種ら
と云と種乃名のと云と種乃
字と草小不痛と云と云り
らと云くハ草乃乃らと云

極物よ二句草乃字よ二句
るり水乃字は二句さよ二句
町々極物るり後乃字よ二句
あし寸草よ二句さよ二句

くさきよ二句

二句さるり
クみのさよ二句

不極思ふと付句と極や二句
二句さよ二句さよ二句さよ二句
くさきよ二句依乃字よ二句
乃くさきよ二句乃二句のくさき
るさよ二句乃二句

くさきよ二句 洞 新乃二句
まぬくさよ二句

雲くさきよ二句乃下くさき
あ乃乃くさきよ二句乃くさき
くさきよ二句乃くさき

くさきよ二句乃くさき

あひくさきよ二句乃くさき
さ乃字よ二句乃くさき
くさきよ二句乃くさき
さ乃字よ二句乃くさき

油 山類るり一燈二句の物
さるり

乃字よ二句乃字
乃字よ二句乃字

乃字よ二句乃字
乃字よ二句乃字
乃字よ二句乃字
乃字よ二句乃字
乃字よ二句乃字
乃字よ二句乃字

鳥鶴 鳥は連は二句は
物は連は二句を今
句もあけとくそつし
か 毎教はあへんか
當 乃教は二句を今
も當二もあつと人馬の當
又もへしと乃を今と行
屋のあつと二句も當二も
内二の當冠も同か是の
當もつと二もへんは踏
らんおの足もつと月も
さつ物も付るつと
槽械 かつ同は
朽木 かつ白は
又他はつと不
新武ゆはもつと

乃物も朽木の朽
三つと本指と二句は
と付つとあつと本指別
若る乃本指乃もつと
あつとあつとあつと
はつとあつとあつと
はつとあつとあつと
て又八海軍の心を
寸打紙もつとあつと
はつとあつとあつと
はつとあつとあつと
弓流もつとあつと
三句は後への刺
塩名もつとあつと
はつとあつとあつと

神道なりあらしめぬ人毎
はるのまじりとあやまり
とび通乃才一かんる事し

國乃若とあ乃若 下通之
白排

よハ二句まじ

國の若とあ乃若 下通之
白排

排も同あまのふと名あつ
けくはらちかすは紙
とへ通るわ二句まの和を
付申しりうしれを二句
まとまじ紙をまじり
二句まじり付くはらち
くしは物をま紙と通と
いやく同ま乃名は四
あまの付まのしと紙言
付くもらちかすはま
ま乃名とし二句まじり
名あつとハ紙と通とあ
の通は二國とハの二句ま
排は二句まじりあま
まじり二句まじり記とあ
あまら連は紙と通と
くまの紙式の文はまの
まじりあまはらあま
あまの排は二國とあ
と名あまは二句まじ

國乃若とあ乃若 下通之
白排

國乃若

名あつと紙式よく

入しせのまじり伊豆の海
乃海まじりあまの

るなりし玉乃りあよもみぬおも
之句をくさ事し郷りち
二句はくまき

くれ行のあこ 極端と極
るはまは二

白竹とら又句し

精 那よ二あると馬精い
かよある介

堂 二句まき極乃事らさ

乃事年一の事又阿ふよ

二句らわ事よりみちも二句

なるわら阿 転と云阿阿

し転ふよあ〜阿

く〜きと 転ふるなり

あ〜阿不可阿く〜きよ

も 冥途乃もし但るもの

く〜きよ〜阿〜阿〜阿

生死也其乃言と仏さ

冥途と言の転よ〜阿〜阿

あ〜阿〜阿〜阿〜阿〜阿

誠乃事ふよ 阿〜阿〜阿

〜阿〜阿〜阿〜阿〜阿

善よあ〜阿〜阿〜阿〜阿

とも善の字よ二句極し

毛 冥言乃脱し多あ〜阿

それあ〜阿〜阿〜阿〜阿

ま〜阿〜阿〜阿〜阿〜阿

又阿ふよ二句 備るう一業
乃さよふの回さうし 物あき
し三句 可はずし 死らるる
すし 業の字の正さ 成るう
くし 一ひくし 業の字の正さ
もし 一ひくし 業の字の正さ
云 一ひくし 業の字の正さ
寸 一ひくし 業の字の正さ
成 一ひくし 業の字の正さ
蜘蛛 一ひくし 業の字の正さ
字 一ひくし 業の字の正さ
面 一ひくし 業の字の正さ
一ひくし 業の字の正さ

蜘蛛一蜘蛛と蜘蛛と一

蜘蛛一蜘蛛と蜘蛛と一
蜘蛛一蜘蛛と蜘蛛と一
蜘蛛一蜘蛛と蜘蛛と一
蜘蛛一蜘蛛と蜘蛛と一
蜘蛛一蜘蛛と蜘蛛と一

灌佛 三月八日 弘証聖の
筆式ありし

梔乃花 乃乃之報之梔
乃乃之報之梔

らるりも報へ業務乃る日
あ

雲乃其の

多し六月無日の
何れよ此等のもの

かゝるものなりしは
かゝるものなりしは
かゝるものなりしは

くはらひのふりて

法はらり

行葉

多しりて其のふり
報り

御給の傘

屋

款冬

只一冊よの款冬乃
款冬を又乃衣又

は内ねとくく今一もく
山乃字吹のふりよも不痛
付くもくくくくくくくくく

ひさく物物さりて又
款冬と付くもくくくくくく
葉乃若く款冬をくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

ひしぬいし漢の目むしあわ
まわわりのさげたさけりの
そとのししとよあしあめ
ししあめしし

宿

只一睡は一屋よりいふよ
わりあきの屋よりあめ
屋よりあきのありあり
い新式乃之草と葉と花
う一屋二句乃乃物よあし
うう向のわらわしうあめ
まの宿と屋よりわと別あり
まめ二句はくしるさあめ
然し睡よの宿二乃あり
まゆくと寝よは寝る今
まゆと宿よ屋より連はれ
と寝るい睡よの宿と寝し
月あめあきの屋よりあ
宿よ七句まの屋よりい
れを睡かり

屋

まの寝一と寝る一と新
式の屋よりも
二句の睡いはいあよ展宿
二十八宿乃敷今一あり宿二
屋より二あめくも二あり何
乃宿あくも屋よりあく
も為別をよめさ寸宿わと
り乃表よ敷よは寝る宿の
まゆとあゆとわらわたり
いあしあゆとのあし
乃あしあゆ

屋乃字

新屋の字
敷と向は睡より町

在酒屋又と行くと新のり
鏡とともとれし一産又句よ
成し馬屋と別よ一既乃字の取
在に七句を之宿屋とわな屋
色々又句を之家り八と句
色

柳

只一善柳一秋冬乃乃に
一柳よひひあよ柳やぶ柳かた或の

揚柳欽善柳下魚柳崇
柳又或の柳揚柳と浦柳乃
あるとのるよ一わわらと句
乃柳と色ふと為難之極極よ
わら次但し内柳乃あらわら
品よわら守兵柳の法よわら
あとりあにねよまに極極
水鳥とては家村井と色水

西国は乃河之系西洞院川の
色よ清あわらと柳と極
ら極とわら乃名よやせと
名取よ准と極極よ二句
乃人よま一わらとらと
向云ま長と信も云乃乃下
天正乃以の取目代と結目
方物よも名取と一と尖
もと名取よとららひん
わら善云離よ小字ありま
乃類と所へ付合よ月ゆ
上斤回舎乃約よとわら
系約乃取目代とら又善ら
同く西洞院通乃来り柳
乃水とくわらと水と
と色とくわらと極とらと

の西移く人ふあつるも
 きしりあはよとて海き道
 理れらるん次但き登の家道
 次才あつる人——高世乃詞よ
 物と柳よ庭と——まじり入柳
 登と——留柳とまじり
 柳田乃内こ入庭——とま
 ち揚枝中葉の菌ともち
 登と柳乃字よ付白汁と
 湯と植柳よもまじり——わ
 次はは柳枝とらととまじりも
 見とわはら人——守——とま
 と——とて庭も——不守は柳
 よちと結くともまじり柳りり
 し物秋らりぬあのみまらら
 ち地こ若葉のうあ——とまじり

藪乃多とこあよとまじり
 園——庭とら物と——園
 と一あ——とらとらとらと
 と藪とらひらとらとらとらと
 人——信命とらとらとらとらと
 世と——竹葉と藪と——とらと
 誤らりて庭よの行と付とて
 とらとらとらとらとらとらとらと
 とも付身道理とらとらとらとらと
 同とて成とらとらとらとらとらと
 付らとらとらとらとらとらとらと
 時次——とらとらとらとらとらと
 人——とらとらとらとらとらとらと
 可と後とらとらとらとらとらとらと
 ちと連とらとらとらとらとらとらと

園——庭とら物と——園
 と一あ——とらとらとらとらと
 と藪とらひらとらとらとらとらと
 人——信命とらとらとらとらとらと
 世と——竹葉と藪と——とらと
 誤らりて庭よの行と付とて
 とらとらとらとらとらとらとらと
 とも付身道理とらとらとらとらと
 同とて成とらとらとらとらとらと
 付らとらとらとらとらとらとらと
 時次——とらとらとらとらとらと
 人——とらとらとらとらとらとらと
 可と後とらとらとらとらとらとらと
 ちと連とらとらとらとらとらとらと

離りの教を教へしとて教
へ向ふありん教力教を
乃也今一白く入しと三白
教をくくん教をくくん業
乃業ありんも同家の

第一 年乃矢一連ふ二われ
し離りの夫もきく夫も
夫も其後夫も其の教乃
離る今一白とくくあらし

山城乃この山とて河

場と連うしはと集あしとて
形と今一白とて離りいれ
と久くも形流も形ありと
今一もわらるるわ存安かん
形も形も形もわらるる

生類よあらしとあり乃形
と云句あらしとあり乃形
面と通るる一翅の不可得山
城乃とてあらしと耳よた
さ積し形乃とて三句場と

山 形 雜し山類し山形と書
て和名よ山形とて焼く

山形の中し山形とてつと
形を形とありと

山 形 山形よあらし山字に
三句とてとて入し人

備しをすひと山形よと人
備よもあらしと仙人と書
ねよ山乃字よ二句人よと
三句とて丸形山形とて
て山形をのりしと人

白ゆきし山殿より見ゆる
まのちかたし山平よりあめ
加しとてけりしあこよの
と浦人も水也よのり
くせしと聞はせりあ
るるれは正理を志人
乞ひ共んぬるも
娘山殿とていふ
河よ成加よ山乃
山歌よあめ
里よふとあめ殿
とまじりまひし
類よ也と仙人
ぬおきれも山
仙人あめわま
は双し句神よ
細子程非を
らるるたよ
あめり
あめり

山

曉乃中事とわら

みすけきこのあめ
山人と人々
せりまの古今集の
乃まの曉の
の歌よ
屋うみ糸糸し
かうとやめ
糸のうら
とま物ちを
造ひさ
惟よ
不審

くわく 終りく小倉乃石
多とねおしくも成るしと
し糖ゆき終りし山乃石
山終りし終りし山乃石
くわく 終りし山乃石
終りし山乃石
山終りし山乃石
山終りし山乃石
山終りし山乃石
山終りし山乃石

山と山

山路と山路
を橋よあらし

山乃

山類よあらし山乃字
よと白塩難るわ

山乃

山乃字
山乃字
山乃字

山と山乃

山乃字

山乃名ありとある山乃字不
符しともあらし富士山乃字
ひえあらし山乃字
おも又名ありあり山乃字
と山乃字よあらし山乃字
山乃字よあらし山乃字
山乃字よあらし山乃字

山乃瀧山乃

山乃字

山乃乃宮

山乃字

山乃瑞小

山乃字

みゆゆに紅也乃く終り
百ヶ條よ山乃湯り由願
面と湯とありも又よ湯を
ぬきこ山乃湯とらふひさ
しきふひさふひさよ
りぬきあふひさふひさなり
又ふひさ山乃下小湯り
受の化りまふ湯あり終り
立ぬきあふひさふひさなり
ぬき湯と山乃湯と面と
湯りぬきぬきぬきぬき
ぬき湯と山乃湯と何れぬき
ぬき湯と山乃湯と何れぬき
ぬき湯と山乃湯と何れぬき
ぬき湯と山乃湯と何れぬき

あふひさ湯と山乃湯と何れぬき

山乃湯と山乃湯と何れぬき
ぬき湯と山乃湯と何れぬき
ぬき湯と山乃湯と何れぬき
ぬき湯と山乃湯と何れぬき
ぬき湯と山乃湯と何れぬき

ぬき湯と山乃湯と何れぬき

山乃湯と山乃湯と何れぬき
ぬき湯と山乃湯と何れぬき
ぬき湯と山乃湯と何れぬき
ぬき湯と山乃湯と何れぬき
ぬき湯と山乃湯と何れぬき

ぬき湯と山乃湯と何れぬき

山乃湯と山乃湯と何れぬき
ぬき湯と山乃湯と何れぬき
ぬき湯と山乃湯と何れぬき
ぬき湯と山乃湯と何れぬき
ぬき湯と山乃湯と何れぬき

ぬき湯と山乃湯と何れぬき

ぬき湯と山乃湯と何れぬき

よむよむとてぬ

山乃又野のちよふはよ

紅葉とてはゆふのうらやま
よむよむとてぬ 郷に入せば
きこ

山

あやうしこの極物さ
ゆるよよふふかた
ふらうふらうとてあはれし
物よあはれしとてあはれし
は本のちよふとて山はよ
とてあはれしとてあはれし

山

は本のちよふ
乃房の執田

山

ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた

社

あやうしこの極物さ
ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた

八橋

ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた

ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた
ゆるよよふふかた

むりんとる^ぬ過人^{かた}名^なを^かし^らの
八幡と書^かす^るとの^いは^はら^んる^い
て又^まる^く一^つ屋^やの^いり^の
と^あら^しむ^から^しむ^から^しむ^か

八幡と云^ふ河^川連^は二^つあ^れの^い灘^の六^つ
二つ下^の重^の字

連^ふふ^と婦^の六^つ灘^は七^つ白^きき^きま^まな^ま
か^らぬ^らら^しむ^か河^川又^らら^しむ^かと^終
よ^は清^く白^くら^しむ^かし^むの^い河^川
も^あら^しむ^から^しむ^から^しむ^か
河^川と^あら^しむ^から^しむ^か

河^川連^は二^つあ^れの^い灘^の六^つ
二つ下^の重^の字

二^つ白^きき^きま^まな^ま
か^らぬ^らら^しむ^か河^川又^らら^しむ^かと^終
よ^は清^く白^くら^しむ^かし^むの^い河^川
も^あら^しむ^から^しむ^から^しむ^か

河^川連^は二^つあ^れの^い灘^の六^つ
二つ下^の重^の字
二^つ白^きき^きま^まな^ま
か^らぬ^らら^しむ^か河^川又^らら^しむ^かと^終
よ^は清^く白^くら^しむ^かし^むの^い河^川
も^あら^しむ^から^しむ^から^しむ^か
河^川と^あら^しむ^から^しむ^か

とていふてもふかきゆい
ふもつ月のかいふのり
かふかよふてかきふの物
るむかふらふかふもゆ
きよふかふかふかふか
ゆりゆりゆりゆりゆり
い月よふらつ下くかきふ
かふ乃下くかきふ今も二句
し書らふかきふかきふ
あへ

かきふ 交らふかきふ
かきふ けらふかきふ

かきふ けらふかきふ
かきふ けらふかきふ
かきふ けらふかきふ
かきふ けらふかきふ

かきふ けらふかきふ
かきふ けらふかきふ

かきふ けらふかきふ
かきふ けらふかきふ

かきふ けらふかきふ
かきふ けらふかきふ

かきふ けらふかきふ
かきふ けらふかきふ

かきふ けらふかきふ

海

かきふ けらふかきふ
かきふ けらふかきふ
かきふ けらふかきふ
かきふ けらふかきふ

あつらふあつらふも松乃風
二句あり

松乃風 松乃風といひく
二世の文彦不介

ても二ある人一の文彦と
あつらふ二不介有連
くのおとく離れせし風
と松乃といひくといふこと
松乃あつらふ松乃松乃松乃
も二乃也

松乃風

そのまゝ
加へて松乃

二句可極松乃風乃可極松乃
松乃よるまゝよるまゝ
となつて松乃新式は調の
可極と云ふこと松乃松乃

ひふと松乃松乃松乃松乃
とつて人あつらふ松乃松乃
松乃松乃松乃松乃松乃
松乃松乃松乃松乃松乃
松乃松乃松乃松乃松乃
松乃松乃松乃松乃松乃
松乃松乃松乃松乃松乃
松乃松乃松乃松乃松乃
松乃松乃松乃松乃松乃

松乃風 松乃風といひく
二句あり

松乃風 松乃風といひく
二句あり

松乃風 松乃風といひく
二句あり

松乃風 松乃風といひく
二句あり

緑もあもまともあれとる理
あつらふ寸さかまひは緑の
又中かゆくもりのとらこちと
まのあつらふ緑乃おま
とらあつらふとら乃あつら
ふ可なり

松乃也 百年一より一より
松乃也 松乃也

正花よいあつら

松乃也 松乃也

松乃也 松乃也

松乃也 松乃也

松乃也 松乃也

松乃也 松乃也

松乃也 松乃也

松乃也 松乃也

松乃也 松乃也

しつこくつ葉植物より一の
葉^ひを名名の志定を松
乃松乃類と非植物正月の
松^ひ葉より二の人の志定よ
云松よりものよありは松葉
乃松乃葉竹も松よ云松も
同お昔の名乃松根も同お
正月の正の根よりしつこく
葉の根より松とれと云
かの植物よりなり乃日れ云
と同一

松^ひ葉 植物よりあり松より
かこのの不同あり 昔云松の
葉のありありありありのこ
りこい生葉よりありとあり

自^ひよりつこく植物よりあり
松乃葉もまの葉葉も植
物よりあり松よりあり
なり一松よありの植物より
ありありありありありあり
ありありありありありあり
葉とありありありありあり
とありありありありあり
序吹よ松葉とありありあり
るれ松とありありありあり
てありありありありあり
るありありありありあり
場とありありありありあり
とありありありありあり
乃名も植物よりありありあり
松よ松乃葉とありありあり

して菓子のふと仔りのるれも
根おりのめり物るれは極物と

難 難よの二五力虎の難 難よのきり
難 難よの難よと難よと今一五二

約 約よの二五二の約物と
約 約よの二五二の約物と

るりね虫ま風よのひりま
てもと白の肉も約乃字のみ

りすち約物とのひりり
もあらへ一連よ約物らる

りし縁とも約物らるらる
二乃外よ今一あらるらる

せりむらうらそれあらる
降編起ふましとそれぬの

あぬ乃 巻ははぬあぬの難
不可は割

不 不可は割

秣 秣物おも生敷よもるの
字ふなき二句極し馬は字

一連おもちと極へと難よ
七句らり

枕 ぬふまのぬよ青一枕香
のこがのこらりまよま

名ぬよありあうあくと
むらあよ枕香と又又よよ

ふらし極はげ何と極ふに
も枕の字より一難よ又白し

精 ぬふまのぬよと不極よま極
よま本のまよよぬのぬよ

白可極 ぬふまのぬよ
極極極ぬぬのまよぬぬ

ららまよまぬのぬよと極
ぬぬららぬぬぬぬぬぬ

ぬぬららぬぬぬぬぬぬ

つよよニ久き本篇よまの
字と書ハ枝ち山松の葉な
とて可のまたるり極極と
本乃字よ不極又ま本と
ニまよし書ハまの本の屋ま本
の戸とて可乃す此極極り
わく本本の字よまのま
りよまニ句極まのまとニま
まうくくささまうくく本
とわびるこまあし

海 うみ

本のまニ句ま
柳極るとま

石極極よまゆりままこと
らりりも本の名とまあ
てことま極まのま
ら極たるり

く極よ極るりま
とまと極極とらくま
次泉極とま極極極
あうそまれまらよ極極のま
又後頼の深山極葉のま
あく日く極まのま
ま極極まらるるま
まの極極極まのま
ま山よの極まらるるま
極乃らるま付まらるま
ままらるるまらるるま
まの極極まらるるま
まの極極まらるるま
まの極極まらるるま
まの極極まらるるま

るふと終石と云ふ葉もむね有り
海とあつとあり和名よそれ
と海とれたのくしととも定家
首白丸能名を付くわとと葉
丸く枝乃とさふくしは根を生
と海と平らにあらあしとわ
と終らるしはさふと根と
りあ木の葉よよく無ありひ
根ととも木とちたて及とる
さあふと久ゆらとふくありの
そまは定家あさつりわとち
くはくしよあふ根共とれたま
りりもよあ終あり一終と
ありしと根と人も根とさく首
あふと根とあふくお根とま
て人あふ根よとつり付く

さくしとさくし定家と根と
さくし及しとさくし者よと終石
もこじらま地下にもあふ根と葉
と海とららるし次山海も下
のくさふとあふくしと終葉とら
あふくしとゆくめ根と一終と
あふくしと根乃ららるし終石
おあふくしと根とららるしと
又付らるしとのあふ根とあふ
とるのよあふ根とあふくしと
と田舎よあふくしとららるし
めよあふくしとあふくしと根と
とららるしとららるしとあふ
と根とららるしと葉よとららる
根と針とららるしと根と
とれたのららるしとあふくしと

又は鏡も若しと結右乃事
 とらふもめり葉も枝より
 さらしつゝとれさつゝとらふも
 結るれとさつゝとらふも
 物うすくつゝとらふも
 めら結るれとさつゝとらふも
 のさつゝとらふも
 根本とらふも
 葉よ取らふも
 結らふも
 葉に本乃結るれとさつゝとらふも
 よさつゝとらふも
 一と結るれとさつゝとらふも
 及ぶよとらふも
 内次尚後世のさつゝとらふも
 結るれとさつゝとらふも
 つゝとらふも
 時と本の結るれとさつゝとらふも
 めら結るれとさつゝとらふも
 とらふも
 とらふも
 とらふも
 とらふも

鞠乃事

庭乃事

或よとらふも
 鞠乃事
 結るれとさつゝとらふも
 葉よ取らふも
 結らふも
 葉に本乃結るれとさつゝとらふも
 よさつゝとらふも
 一と結るれとさつゝとらふも
 及ぶよとらふも
 内次尚後世のさつゝとらふも
 結るれとさつゝとらふも
 つゝとらふも
 時と本の結るれとさつゝとらふも
 めら結るれとさつゝとらふも
 とらふも
 とらふも
 とらふも
 とらふも

形系ふといふくも又高野を
あやしくともほお場乃字
乃心あたるなり新式より
よ秋あり離しつたりとを
さいつ言をのふといふ人
能く場乃端もつらふのを
あよくつ〜つ

ろふおろ

二つさく〜さく

始〜〜〜つらつらあつら
新式なりといふつらつら
あ〜〜〜道理をいふこと
あ〜あ〜〜つらつら
ま場〜離〜つらつら
つとつら〜つら〜つら

美鷹

あつら〜つら〜つら

あ鷹或い鷹つら〜つら
あつら極つら〜つら

眉乃

あつら〜つら〜つら

あつら〜つら〜つら

山眉柳の眉〜つら〜つら
つらの眉〜つら〜つら
あつら〜つら〜つら
あつら〜つら〜つら
あつら〜つら〜つら
あつら〜つら〜つら
あつら〜つら〜つら

まじい後海らじ 海

海らじ 海

海らじ 海

海らじ 海

海らじ 海

松尾文 白月と申一日

今日

今日 二離よりあんだと替

今日 昨日の二句まじ

今日 今日のまじ

今日 今のまじ

今日 今のまじ

今日 今のまじ

今日 今のまじ

今日 今のまじ

よきうゝぬとらゝ流を修め
せし果るゝゝの道教十道
乃誤を只とてゆゝ一ゆりあ
感へのあまらりまはるゝ流よ
おろゝもあり二三百十年
の人達の流を感ある感
るれれぬ百年子年とん
乃古んかあゝゝよゝゝあゝ
迷ミヤウよ感流をいもゝかゝん
るり人ゝゝ人なゝ志流あゝ
ゝ流も理乃をすす前を
ゝ道の正氣とあゝ流るゝ
唐乃儒書の古流新流

と流るゝゝの流あゝゝの
あゝん

河を連よれとゝゝの流
よの向と流るゝり

下知乃河 二句き

ぬ

知チ 只たゝゝゝり
あゝゝゝゝめりき

志流又流るゝゝも若れ聖
とゝあゝり若る乃たゝゝあ
良志聖能の志流乃歎るり
は二乃河一はあゝゝ乃古里
一と一と一は二句あり流るゝ
あゝゝゝゝ一若るゝゝ一若り
一と一と一は二句あり
流るゝゝゝ乃河成るゝ

よへ二句、昔よへ依句、律一切
不爲但悔らめとみとの類
よへじう二句、悔らり年
とある月を悔つたりといふ
字制され依句、律二句、悔
らりも可まあるい而八句、
也よへ悔らも七句、但悔ら
らるいらくしありす

友 只一友、京一妻とくく
一但妻とくく又可し有

事、舞、やとくく新武蔵
加よ連よ地乃妻の友らり
て妻乃友と友京氏とを友
二句の物と守、誰よへ地乃、
乃友、乃ら友、友、乃友、
友、乃ら友、友、乃友、
友、乃ら友、友、乃友、

乃地今二ありく二句乃物
又くくく、皆よ、讀友よも不
同あり友、人、細く、友、字、相を
友、友、友、ら、の、人、中、右、ハ、友
京氏乃内よ成く、友、京、乃、も
友、京、氏、の、中、ら、り、友、京、氏、
云くも、同、あり、かり、友、京、氏、
お、傍、く、皆、よ、讀、も、一、友、三、句、の
物、く、皆、乃、と、く、ゆ、く、友、京、氏、
友、京、の、物、難、く、友、京、乃、の、友、京、
よ、京、よ、京、乃、ら、り、友、京、氏、連
誰よへ、悔ら、あり、く、ハ、京、氏、
又、物、を、ま、く、と、く、と、く、物、あり、友
乃、字、を、く、け、た、友、京、氏、と、く、
て、物、物、あり、あり、友、京、氏、
も、あり、友、京、氏、三、の、あり

又 志の一端は一又学よき
 玉梨子と白乃内なるり
 よい志ありくも務めくも
 又学よくも三乃亦く今
 せんと終はは徳くもあこし
 物とく終るく新式は又学
 とありくもあく人しりくは
 生るあ又乃きくもあこし
 事し玉梨子と白乃内なるり
 人おもくもあこしは又学
 かめもあこしは又学
 乃事とあられは又学人
 志乃又一あこしは又学
 年し終乃又一あこしは
 乃玉梨子と白乃内なるり
 の文とあこしは又学の玉

可いあかぬく曲又と
 云又若く又学又文
 終又起終又終又 瀬浦又
 又文箱又道又才又筆又
 集りありの終く又乃又
 なる終く又か又由又安又
 又乃終くもあこしは又学
 乃人の名も茶葉よ又学
 兼言よひあこしは又学
 公又下 終乃終くもあ
 終又終くもあこしは又学
 乃終くもあこしは又学
 乃終くもあこしは又学
 和漢驛白乃終くもあこし
 人終くもあこしは又学

うるまの家のと非人傳と
 ちりせし油承唱念ふは如來
 湯野休山依入道ふまて
 一も波つる門るは縁論
 か来ぬは傳乃字計て人傳
 よせぬは新式人傳よわぬ傳
 とおせらるは九傳よわすふ
 殊著賢親言勝也乃教を
 尸之仏法傳を三寶と号す
 ひ傳乃事之傳乃字付くも
 小傳憑傳事かり傳貪傳乃
 類ち各人傳さり傳正傳類
 白くは友若るれく人傳り
 わく次伝は正傳と始めは八
 祖くは徳家の開山と帝尊山
 くのあはすは人傳号 如來傳号

甚難考すと伝ふありしゆら
 お承らる不可入大傳と新式
 乃字とこと知ありたるしゆら
 若くは之傳さりは人傳号回
 傳号とくありし傳者今傳
 よきしひあはるるしゆら
 乃文ありしも文乃字よけり
 衆相ち百堂をも現とて伝傳
 半田堂傳とていふはもるし
 くのす又年号り人思若ると
 乃がん乃字よは田堂も現と
 もるしゆらあはるるしゆら
 大のありしと忠義去の傳り
 としゆら文學乃字よわらひ
 乃字の不可けりしれも別の藝
 能を學ぶるをせししゆらかす

庶務乃文章の初水これの
わとも乃初はは初後虫の類
不可付庶務乃文玉と云ふ
物持り紙と云ふ面と可場
り書乃文よ菓子繪字よ
くくくくくくくくくくく
士海人云初書初面と可場
庶務の文玉と云ふよ
もきくくくくくくくく
乃初も乃初もくくくくく
ひ文書と云乃初くくくく
わりも初くく初よくく
各別のもく初よくく初の
初く初よくくくく初の
乃初くくくく初の初と初乃
くくくくくくくくくく
可くくくくくくくくく
くく初乃くく初もくく
初の初初初初初初初
乃文と書面よありくく初
く初くく初初初初初
其初とくく初初初初の
初初初初初初初初初
文月くく初とあり初初初
文乃初初初初初初初
よ一初初初初初初初
文月くく初初初初初初
乃文初初初初初初初
文書乃文よ初初初初初
乃初初初初初初初初初
ても文月くく初初初初

廿一 舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...

筆

只一筆よのりた...
只一筆よのりた...
只一筆よのりた...
只一筆よのりた...
只一筆よのりた...

筆乃りて

舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...

舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...

舟

舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...

舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...

舟乃りて

舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...
舟と傳文乃りて...

同云々陸田向の物と云ふは
里ありて又向のまじり倍よ
るせりて向のめり言ふもこの
うはふまじりありてわれは
御仕よまじり人よ然も此輕重
とありて向のまじり言ふも
成那のまじり也此は向の
かゝるまじりと云ふは

富士と針也
山敷と富士川
山敷と向の

ぬりて向の
かゝるまじりと云ふは

左云々牡丹乃名は向のまじり
納るれは向のまじり也
連那は向のまじり也
一は向のまじり也

牡丹一和若よ向のまじり
向のまじり也
向のまじり也
向のまじり也

深之深也
向のまじり也
向のまじり也
向のまじり也

向のまじり也
向のまじり也
向のまじり也
向のまじり也
向のまじり也
向のまじり也
向のまじり也
向のまじり也
向のまじり也
向のまじり也

之海防也。後一舟之為乃るま
 川よ本あり弟ありも地味下ら
 申るれを務めあり次をて扱ホ
 一は後一舟務めありとあらせらる
 新式をて見こころひらとせり
 新式よと海防の後舟の務めは白
 不為務めとて苦んつけ小艇とて
 小舟おかり舟たあ〜〜小艇
 此舟もも不並務酒舟馬舟
 不及言たは舟也務とあらせり
 あまうし高貴の人と〜〜務と
 云成舟〜〜あ〜〜の物
 い業平と〜〜の舟下も務り
 ありありと〜〜海人かんとあり
 たまあへ〜〜られ海防の
 今〜新式船の舟の舟
 務めあり〜次は舟の舟人
 乃舟と貴人も海とと海と
 せ給へと務めありと海に舟
 物舟死つけの舟ありあり
 いとわ舟舟舟ありあり舟舟舟
 乃類は務めあり〜次は舟舟
 のとあり海よもあれ〜〜よ
 ちの舟死と〜〜とせり
 舟とあり〜と務めあり〜た
 一舟舟よ〜舟あり〜舟と
 海防と〜舟あり〜と務めあり
 海防と〜舟あり〜と務めあり
 海防の舟よも舟あり〜と務めあり
 舟とありありありありありありあり
 舟とありありありありありありあり

揮ひのこもりしやうけり
こころの海にの船政のあ
とまらぬこころの陣舞
にほのめくはす舟揮ひのこ
あつら様よとて入るはあ
とわらぬ様よとて入るはあ
右人のうらぐらぐはあ
るこの指合とてはあ
道よとて入るはあ

船乃字

夫船舟と海舟
も舟墨山は舟の舟乃字
よとて入るはあ

冬乃月

まなをこしは連よ
とて入るはあ
よとて入るはあ
あつら様よとて入るはあ
加手しとて入るはあ
月よとて入るはあ
葉よとて入るはあ
もつらとて入るはあ
わとて入るはあ
冬月とて入るはあ
乃月とて入るはあ

冬乃月乃野とて入るはあ
とて入るはあ

冬と冬よとて入るはあ

林兼

二乃物とて入るはあ
あつら様よとて入るはあ
あつら様よとて入るはあ

婦の成衣衣衣衣衣

其の意
表傷乃

可憐なるもの意乃...
あつたし表傷と打越...
の月夜ある人の状者...
後と意と意と意と...
身乃...
身と歎...
身一...
とらん...
表傷...
あ...
身...
意と...
可憐なる神...
表傷...
婦と意...

婦の泣

其の意
生熟...

と婦...
は...
折...

吹

其の意
婦...

念...
不...
と二...

婦

其の意
婦...

文乃字

あらむ乃と暁乃
わなと暁乃月のあ

あまのこくわ乃と暁乃二連
あまのこくわ乃と暁乃と暁乃
あまのこくわ乃と暁乃と暁乃

あまのこくわ乃と暁乃と暁乃
あまのこくわ乃と暁乃と暁乃
あまのこくわ乃と暁乃と暁乃

あまのこくわ乃と暁乃と暁乃
あまのこくわ乃と暁乃と暁乃
あまのこくわ乃と暁乃と暁乃

あまのこくわ乃と暁乃と暁乃
あまのこくわ乃と暁乃と暁乃
あまのこくわ乃と暁乃と暁乃

道徳のあまのこくわ乃と暁乃と暁乃

あまのこくわ乃と暁乃と暁乃

あまのこくわ乃と暁乃と暁乃

冬の文

十月

佛名

十二月十日

名

本

連は一向の物と暁乃二

右へ耳一おち物るれはしうあ
乃本指乃集と二句と人な
もし本指よ本乃字二句ま
し本のるあうけまああ
つひくも回あこまへハ指乃
字別よあまをし付句らうらと
ゆしうも風神よ二句ま
ま言物よ本よも指うもれ
と始とえハか湯次本のら
うハ行とゆしうの成へ
御よハ本指よ本のうゆ指本
古本あらんゆとゆし指とま
字付一よ二句ましそれも人
め乃りあハ新うれまゆり
二句まゆりま阿ち離乃字
まあハ本指もあまなり
指乃句あもあまなり
吹ゆへたわ

あし

あし
ゆ又二あり離よハ
ゆいふましゆ二ひかり
意慕と替よ今一ゆとこ
意乃句ましゆあしゆらあ
連よも今一ましゆも離よ
と二ありまなを連乃こ
とく意乃句ましゆあよ今一
可まし意乃字ましゆ一産よ
回あわはゆれとまへしあ
意乃句ましゆあ意乃字二か
ましゆと意乃句乃内一か
まへしも歎の意もは意の
ゆらわ

慈山

慈ヶ山乃てそと横々
とてふきとてふに故り
新成りとも山敷よわらさけ
取よへぬり海お時乃名取よ
慈乃山とてそと横々たぬ
取よ山敷よ成てゆき慈の山
乃句解ざらたてけとてま物
とてそと横々取よとてそと
作ふも海と志と孫とてそと
宗道只慈乃とてそと横々
山敷よとてそと横々
とてそと横々も新成乃とてそと
とてそと横々乃とてそと横々
とてそと横々乃とてそと横々
とてそと横々乃とてそと横々
とてそと横々乃とてそと横々
とてそと横々乃とてそと横々
とてそと横々乃とてそと横々

慈乃白りく

之句とて

精

只一花てねたつひくそと横々
乃秋ひ肉よ可きとて新成能
よと横乃始二句外よと横乃
九月の夫右るりさけよとわ
てと横乃二句とて横乃
末乃字末の字二句とて横乃
地末乃字結ひへぬる句とて
と横乃と横乃と横乃と横乃
と横乃と横乃と横乃と横乃
と横乃と横乃と横乃と横乃
と横乃と横乃と横乃と横乃

末乃紫れぬ

地物とて横乃と横乃
七句とて横乃と横乃
地物よと横乃と横乃
地物よと横乃と横乃

わきすた新式よふ別とく人
物乃取よ取方よ可地
ふゆるわ昔等も本乃葉の
者乃毎よあてるしこるり
ふこれゆき居たさゆあよ
毎乃ゆりよ本乃葉ふく中よ
へりゆきこもあきこし免角
あま地物乃物よつるしと
又こゆわとねら月の中
おれと文の句るれた物
よこらうとゆか新式
後より入るゆき
後より入るゆき
後より入るゆき
後より入るゆき
後より入るゆき

月 後より入るゆき

本乃葉衣

極物小も衣敷
ふもたよ之句

冬るわ

心乃記

まるりの心記さり
久物よ二句なり

詞の可

他物乃むまふま
知とてふむよあ次

同云ふ乃記詞のむ何乃
しらあわわくゆやう判
ゆるきと答云人の心もま
あうきこちやうもれた心乃
むらむむりゆりかたり詞
乃むらうゆき舞台と人
のきよとゆわふりさり

てらぬのふ詞をいふ心はよ
かしくさゆにそを物云詞の
むまふさうしんといふとまふ
今京初ういまよ用し一ふ
よらうのあしきありて又
一ふよいまよあしきといふ
りとおぼね邊より移成り
まよあしきといふとまふ
穿殺登よ不可及

九重

あつらひのむねを
よあしき若依よあ

れを初乃日若名を連よ初
よ初と始し、排りい面を始
なり九重あつらひのむねを
小一ありあつらひを久九重
九重のたつと一あり排り

九文字ある面は一はくこの内
和よ續く二つと八をまかふ
字乃日あつらひのむねを
あよりさつらひのむねを
あしき文字の回しつれを
おきしとまふのむねを
一あつらひのむねを
面を始しつらひのむねを
とまふのむねを
あしきかあつらひのむねを
あしきよむねを
てらうらひのむねを
もあつらひのむねを
おきつらひのむねを
初一しつらひのむねを
とまふのむねを

新武のよき葉のさより不始
 のよき葉も朝より暮りし
 さ裡ともハ葉乃字よ三百
 きいぬ又あゝのたれたつてハ
 方乃もこきも葉の字よ
 きいぬあゝのたれ通し朝
 と云字ハ面よりりとはり
 詞記方乃もあゝのたれ
 葉の乃よたをさあゝ一詞
 一花とさうすうあゝの
 一あ方乃もあゝのたれ
 一の葉の乃よ面よりり
 一始一詞の花乃よりり
 一あ一詞の集あゝ
 一ささ乃よ不許有終六
 一々あ乃れは詞二の葉一
 一ハハハの葉の通ハ面
 一詞花詞集の終よハ
 一てもハ用ハあゝのたれ
 一そのハ非極相皆乃と
 一事されあゝの葉の通
 一乃と可極方乃道よあ
 一詞と云字よハ面と可極
 一もり終あゝのたれハ
 一皆乃あゝのたれあ
 一あ可字よりりハ吟とけ
 一ハのさ乃ともさ始可始

水一 一あつハのるり
 一月乃ぬ洞乃収るつハ
 一ああ乃収るつハ
 一さびあるつハ
 一庭回乃ぬハハハ
 一庭回乃ぬハハハ

勢よりのひく今一向書よ
 ろめりひはくくすすすひ流
 きてはかちらよ一向あふれり
 うとくひもあつひもひと
 鏡よりの水はよと西と海と
 水は玉と石と水のあつと新
 式よらんてあつ小と火連はよ
 水よれときく海とP八と理
 るりあつても水は玉のあつあつ
 今一向水一程三句の物よあつ
 さらよよりの水はよと海と
 あつひのあつよ水は玉と海と
 水よ八水は玉と石と水はひ
 海とつらつら海と海と
 水は玉と海と水は玉と海と
 水は玉と海と水は玉と海と

水鉢水は糖水んあつ

難しは依る体可あそ水
 みつ乃乃同の水は玉と海と
 今水魚をて海の水とあつ
 ちあつて海むりあつて海と
 水は玉と海と水は玉と海と
 又白乃乃同の水は玉と海と
 水は玉と海と水は玉と海と
 魚つすすすひとあつひと
 水は玉と海と水は玉と海と
 水は玉と海と水は玉と海と
 水は玉と海と水は玉と海と
 水は玉と海と水は玉と海と

ゆり花の如く依りて結まると
定むる一雨澄みありと云ひ
てもひとつひとも結まると
久くとも人々郷よひと
数よ續取汁と一旬表よ
用くつと又句と知會しは
む流りしきる者下し水と
ひたあくともまあくとも只一
と毎日の流りてくすしひ

取魚ふの世只一月の取魚の
取らるるの水色よあつと
水只一もも冬と霜雪も
滴風取魚の取人かよ
乃ありと取らるる一
水色よあつと取らるる
ありあつと取らるる

とれた水と取らるる
雪よとあつと取らるる
乃字と表よ用くつと
取らるる水色よあつと
セウ去ひよ水と結まると
よ七句成りて取らるる
取よ二句ひよ水と結まると
大らまらん乃取らるる地獄の
名もも又乃取らるる
かた難く

心乃松心乃杖 心乃松 心乃杖

心乃松といふ乃りてしうこも
心乃杖といふ乃りてしうこも
心乃松といふ乃りてしうこも
心乃杖といふ乃りてしうこも
心乃松といふ乃りてしうこも
心乃杖といふ乃りてしうこも
心乃松といふ乃りてしうこも
心乃杖といふ乃りてしうこも
心乃松といふ乃りてしうこも
心乃杖といふ乃りてしうこも

あまわさ 詞りふまこお越
と嫌なりりふま

あまわさ 詞りふまこお越
と嫌なりりふま
あまわさ 詞りふまこお越
と嫌なりりふま
あまわさ 詞りふまこお越
と嫌なりりふま
あまわさ 詞りふまこお越
と嫌なりりふま
あまわさ 詞りふまこお越
と嫌なりりふま
あまわさ 詞りふまこお越
と嫌なりりふま

心乃松心乃杖 心乃松 心乃杖

心乃松といふ乃りてしうこも
心乃杖といふ乃りてしうこも
心乃松といふ乃りてしうこも
心乃杖といふ乃りてしうこも
心乃松といふ乃りてしうこも
心乃杖といふ乃りてしうこも
心乃松といふ乃りてしうこも
心乃杖といふ乃りてしうこも
心乃松といふ乃りてしうこも
心乃杖といふ乃りてしうこも

あまわさ 詞りふまこお越
と嫌なりりふま
あまわさ 詞りふまこお越
と嫌なりりふま
あまわさ 詞りふまこお越
と嫌なりりふま
あまわさ 詞りふまこお越
と嫌なりりふま
あまわさ 詞りふまこお越
と嫌なりりふま

以ふ

日本 年 月 日 年 月 日

二の去と二の去をふもわり

さうふりんのふりんの海うみの

字さの流ありき おぼと

けしきおもも路二の去りしと

るふ流丸流しうくく久の字

わらふと古ん中二の去り

定し事ふ流ふありた人

も村系系系のじりあてて

しんさじしんさはんをねり

村系系系のじりくいの系一程

よる流しんさじしんさはん

短さまよも藤もひんひん

打更きりく系系のまけりころお

と云よしり さい唐乃又字よ

も お乃字別はあれた

ちあふ乃地るれた二の去り

定しころり節日と云るハ お

乃字別はあれた節乃字より

も目のさまよもあり屋よ

きしんさじしんさはん

古人は正字をさるぬり

あしんさじしんさはん

日らあしぬの目るれはあも

る流流流流とあ人を年

るれありあれた新式よのを

ぬしハあまあわとくも

しんさじしんさはん

他びとのん流をせん人

ちしんさじしんさはん

るあし

心乃月

難し非親なるを
郷より六月乃字より

みわたりしをいして西乃月
とていふもさしきりし
か

心乃言

非親分をいし
さしきりし親乃子を
みわたりしり又意乃あり
もありとていふ意乃心を
いし連懐よりいふをい
されしも古人そのいふ
いふをいし分あしき
いし

心乃友

非親分非人備
なり西乃交とていふ二
なり西乃交とていふ二
なり西乃交とていふ二

志乃乃女とていふと儒道
あれし人備よりいふ
いしい事いし
連懐非人備よりいふ
いしい事いし
いしい事いし
いしい事いし

志乃

非親分
いしい事いし

いしい事いし
いしい事いし
いしい事いし

衣乃衣

みわたり

衣乃衣乃衣

衣の字より
いしい事いし

衣乃衣乃衣乃衣
いしい事いし

しる名を知るうとつとも衣の
まよふみわく衣ぬを

昔遣

拙物しつくととれそ
新ちて居るなりわ

昔の鹿^{トビ}昔乃鹿

拙物なり
居るなり

昔衣

昔衣 非拙物衣乃
又乃衣と云くつを

昔衣とりあは同し昔衣

昔衣の昔衣乃神の昔衣
迷懐よりさるりく人衣より

りく衣乃一 新式よりん
あり

意乃馬心乃猪

衣乃非生
衣乃非生

乃心乃馬心乃猪
乃心乃馬心乃猪

あゝらだ

乃衣乃一 離
乃衣乃一 離

之句きしは詞ゆふ人
ゆふ人ゆふ人ゆふ人
と云く拙物よあは

あじろあら

皆一字
皆一字

衣乃乃衣乃一 二句
衣乃乃衣乃一 二句
衣乃乃衣乃一 二句

本^ニ玉

本の衣乃玉の衣乃玉
離るハ之句き

物山ひにあひの昔衣玉の
月しれとまへ

去表とゆへ一魂魄と教へ
つひとも因ふ聖乃る子も因ふ
他靈山よりよハぬもく
くす

いぬ 希世こころい物あり
希世よのくす

沟谷原よ 小乃字不備小の
字とあまのあ

沟谷とまこはらわとま
字よりハ之をまのくす
と字よハ付くまのくす
すはわらわとはらと又字
くすはらわ

越後 名原よ二句始り
越後と入る三句去

越後よ 越後と入る
越後よハ付くまのくす
すはわらわとはらと又字
くすはらわ

忘草 越後よハ付くまのくす
忘草と添は越後よ二句と

去今今年 一旬はくあり
那よまきよ

福ん去歳 せん福ん去年
新年改年とくす
くすく一旬より二旬は
あり

今よ 今よと日今と云字
よ不備く

子 嫌よハみあると皆西を
去こ子とくすありあは
人備あり親と子とは
迷懐ありそれも親親
乃あくと親子流と云

ひと非連信子乃字汁も
非連信子乃字汁も
あまの文字別は一字に
むね花子乃肉るわ利後
乃子もみ乃肉るわ人か
児とせのちをけけの子も
乃子もみ乃付向を始介
合子乃非子乃あまの付
もこししししししし
付くもしししししし
合子乃非信子乃あまら
とあまののるらと向ま
乃乃年子乃日るく
とらるはみあも児も付
とらるはみあも

小智信

信乃字云始
信小智信付く

とらるはみあも
ハ信汁を始あれ別のも
とまのゆけに信とあま
さしとららもあま小智の
名らら

あまの

あまの
是字れ類

あまのあも二汁
とらら信は
一信よ一あまのあまらと三
あまの

小智の

あまの
あまの

あら 幸風と云まき

本乃下宮 多し程なり

小鳥後子 故に小鳥のて針の
雑に又なると云も

故に小鳥のともなるし

江

江 連よ二雉よといは内一を
江 名不ぬる人

えびそめ ぬとの勢
ぬる久たなり

葡萄と云えひつるともなり

えあ ぬるとも河百物なり

只一りの雉なり

縁色縁色ると云乃句よ

今一ありえあ」と物を

うゆりし意とぬ縁乃字の

えあよよと句きしそれも居

而乃ゆきとらん人あなれ水

縁ととて可からぬと云ふ

ぬるわけと云ふも可なり

えいとい 一人梅と云ふと

ねと梅と云ふなり

續くとと一 東夷 水状南

宮西我ひ田乃内一と云

ひ内よも南宮と云國乃名

おるなりと云宮の字のえいとい

といよめ人梅と云ふなり

えあ 只一人梅と云連よも

一むとあれを雉なり

二ある人ふあまのうらづりも
いそぐいおふよ東夷と可
あたまふあふいとあうと
とらやあまらふ不可あう又
七月のまらふと夷則と云え
あふいとよふまあふ

傳

寺

ふあに非居を連よ名
ふと只二あれし御りら
ち一居るよ一とあふよ居る
成た替よのふちち号はし
ふと二この替よのちも居る
よのあうと替を寺と替ふ
居るよ二のちこの場寺乃
あうと改非あふ御りら

あうと改非あふ御りら
よのあうとあふよとあうと
あうとあうとあうと寺乃
世帯をよのあうとあうと道理
と夫よあうとあうと居る乃
あうとあうと寺乃あうとあ
も非居るあうとあうと
あがあうとあうとあうと乃
あうとあうとあうとあうと
とあ人あうとあうとあうと
あうともあうとあうとあうと
あうとあうとあうとあうと
あうとあうとあうとあうと
あうとあうとあうとあうと
あうとあうとあうとあうと
あうとあうとあうとあうと
あうとあうとあうとあうと

よ種をとりてくつとありて
まじりしものをしつと練
初ら乃人ちの氣味をくつとわ
ゆるてけなむとえけぬぬよ
連珠とくつと金とよき
けうわ釣鐘とえまてんあよ
まかぬもまもまもつとよ
城廓のしつと頭よも月心乃
くあけとまけんくあけりて
ゆへに新式つとてんあぬの具よ
不火物しつとあよのあつと
けつとあつとつとあつと
まれし連珠とつとあつと
奥かまもつとつとあつと
乃後端とあつとつとあつと
あつとあつとつとあつと

合らわぬとつとあつと
まぬりしつとあつと
へつとあつとつとあつと
あつとあつとつとあつと
小島あつとつとあつと

洗水

あつとあつとつとあつと
あつとあつとつとあつと
あつとあつとつとあつと
あつとあつとつとあつと
あつとあつとつとあつと

ておはのま

あつとあつとつとあつと
あつとあつとつとあつと
あつとあつとつとあつと
あつとあつとつとあつと
あつとあつとつとあつと

山よ今さらわらむと云ふよはいてし海り
乃と云ふとれ射又お向のし白
は終乃東の明も心ちまうく
月をよみくつと云ふよは洞しと重し
と云ふよと云ふ乃れおねよと云ふ
ふうきうし守そ又字お又字
と稱字皆同おね又と云ふと云ふ
りしと云ふ^ねき^ねま^こぞ^ても^て
りしと云ふと云ふの一字ある
洞らしてし海りよ不端それ
もおと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
おと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

物庭家物之親行在日

物ねお物ね物ね

あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

乃乃字

あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
あつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

妻の中へもいへぬ乃内し
又とて下へもいへぬ乃内し
又神の心もいへぬ乃内し
又事もいへぬ乃内し
又とていへぬ乃内し
又わく蕪もいへぬ乃内し
かわらぬよ神もいへぬ乃内し
袂もいへぬ乃内し

よ花さし連も物と場
へし離もいへぬ乃内し

よ洞もいへぬ乃内し
よ洞もいへぬ乃内し

洞の心もいへぬ乃内し
よ洞もいへぬ乃内し

洞あうしこれちこわもいへぬ
よ洞もいへぬ乃内し
よ洞もいへぬ乃内し
よ洞もいへぬ乃内し
よ洞もいへぬ乃内し
よ洞もいへぬ乃内し
よ洞もいへぬ乃内し
よ洞もいへぬ乃内し

よ洞もいへぬ乃内し
よ洞もいへぬ乃内し

よ洞もいへぬ乃内し
よ洞もいへぬ乃内し





